



## 正誤表

ページ・行数	誤	正
(本文及び図版編)		
19ページ・7行目	第12図 西谷Ⅱ遺跡93- <u>3</u> 区出土の土器	第12図 西谷Ⅱ遺跡93- <u>2</u> 区出土の土器

『荒神谷史跡公園整備に伴う 尾田瀬Ⅱ・西谷Ⅱ・西谷遺跡発掘調査報告書』

荒神谷史跡公園整備に伴う

# 尾田瀬Ⅱ・西谷Ⅱ・西谷遺跡発掘調査報告書

(本文及び図版編)

1999

斐川町教育委員会

## 序 文

鳥根県東部の穴道湖西岸に所在いたします斐川町では、昭和59年に荒神谷遺跡で 358本の銅剣が、翌60年には、銅鐸6個、銅矛16本が相次いで発見されました。この考古学史上屈指の大発見は、日本全国に一大センセーションを巻き起こし、荒神谷遺跡は一躍有名になりました。

発見から今年で15年を数えます。平成10年6月30日に、これらの青銅器群が一括国宝に指定されました。このことは、斐川町民、鳥根県民にとってまことに喜ばしく、大きな誇りであるとともに、これからのさらなる躍進への励みとなりました。

また、平成10年より、出雲市、加茂町、斐川町の三市町が「文化財を活かしたモデル地域づくり」の推進地域に指定され、今後10年間を日途とした「出雲王国の里」づくりが進められることとなりました。古代出雲という歴史空間の「点」から「面」への復元が期待される一方で、これらの推進に伴う発掘調査も必要となっておりまます。

ここ近年、埋蔵文化財の宝庫である当町においても、企業誘致や道路整備などの大規模開発事業に伴い、発掘調査も増加の傾向にあります。これらの開発によって、先人の残してくれた貴重な文化遺産が破壊の危機に瀕することのないよう、私たちは、このような文化財を守り、後世に伝えていく責務を負っています。

この発掘調査によって得られる「過去から現代に至る生活発展の証」を皆様にご理解いただき、私たちのまち斐川町の過去の姿に思いをはせていただければ、幸いと存じます。

末筆ではございますが、この調査にご指導・ご協力・ご理解を頂きました皆様に対して、厚く御礼申し上げますとともに、今後とも文化財行政になお一層のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成11年3月

斐川町教育委員会

教育長 村 上 家 次

# 例 言

1. 本書は、荒神谷史跡公園整備に伴う尾田瀬Ⅱ・西谷Ⅱ・西谷遺跡発掘調査報告書である。

2. 本書は、本文及び図版編と別冊プラント・オパール分析編の2冊により構成される。

3. 調査期間は下記のとおり。

尾田瀬Ⅱ遺跡	平成4年7月20日～平成5年6月25日
西谷Ⅱ遺跡	平成5年7月8日～平成6年3月30日
西谷遺跡	平成6年4月18日～平成6年12月28日

4. 調査地は下記のとおり。

尾田瀬Ⅱ遺跡	鳥根県簸川郡斐川町大字神庭 842番地外
西谷Ⅱ遺跡	鳥根県簸川郡斐川町大字神庭 888-4番地外
西谷遺跡	鳥根県簸川郡斐川町大字神庭 815-1番地外

5. 調査組織は下記のとおり。

事務局	富岡俊夫（斐川町教育委員会文化課 課長）・山根信夫（同 係長 平成4・5年度）・錦織 勉（同 係長 平成6年度）・梅 由喜子（同 職員）
調査員	宍道年弘（斐川町教育委員会文化課 主任 平成4年度）・松本堅吾（同 主事 平成5・6年度）・陰山真樹（同 主事 平成6年度）
遺物整理	内田久美子（斐川町教育委員会文化課 職員）・青木由美（同）・大田晴美（同）

6. 調査の実施にあたっては、玉木幸康・四方田三己・常松幹夫・永妻清信・村上晴栄（以上 斐川町教育委員会文化課）・高橋幸二・多々納政之・坪倉貴之・新田 基・江角敬道・遠藤圭一・岡田堅（以上 斐川町立斐川西中学校）・足立真理子・飯塚トシエ・池田 良・伊藤トヨ子・江角 健・遠藤繁雄・太田雅子・岡 喜義・岡田 仁・岡トシ子・陰山真宏・陰山律雄・梶谷正一・梶谷松代・加藤秋子・勝部正三郎・勝部 充・金築順次・黒崎光弘・黒田幸一・黒田哲子・黒田友喜・黒田瑞夫・佐藤優和子・昌子健二郎・昌子滝市・杉原隆宏・多久和 聡・多々納宏幸・常松哲夫・梅真一・梅 富子・中村夫次郎・錦織清志・新田栄美子・長谷川恒太郎・浜崎武志・浜下奈津子・浜田 謙・原 定雄・原 一・原 光子・樋野喜久・横原富美子・松村寛之・松本 恵・三原一将・村上シゲリ・村上哲子・村上花子・持田繁義・山田ヒサ子・山田良隆・山根恭子・山根作夫・和久利 満・和田守晃三諸氏らの協力を得た。

また、藤原宏志氏（宮崎大学 教授）・松村恵司氏（文化庁文化財保護部記念物課 文化財調査官）・西村 康氏（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター発掘技術研究室 室長）・牛島恵輔氏

(九州大学 教授)・水永秀樹氏(九州大学 教授)・寺町康昌氏(職業能力開発大学校 教授)・宇田津徹朗氏(宮崎大学 助手)・佐々木 章氏(大分短期大学)・ティーン・グッドマン氏(マイアミ大学地球物理学応用考古学調査研究所 副所長)・飛田耕児氏(中島町役場町史編纂室 室長補佐)・橋本清徳氏(中島町役場住民福祉課 主査)・土江 博氏(島根県立畜産試験場主任研究員)・大澤正己氏(新日本製鐵株式会社)・穴澤義功氏(房総風土記の丘 研究員)・伊藤瑞章氏(斐川磁業株式会社)・山田哲也氏(元興寺文化財研究所)・中村唯史氏(島根大学 大学院生)・杉原清一氏・藤原友子氏・平井秀雄氏・島根県教育委員会文化課の方々からも有益な助言・協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。

7. プラント・オパール定量分析は、(財)古環境研究所に依頼し、協力を得た。また、宮崎大学の藤原宏志氏をはじめ、宇田津徹朗氏、農学部地域農学研究室の方々からも多大な協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。

8. 本調査にあたっては、用地周辺住民の方々には、多大なご迷惑をおかけする一方、格別なるご協力・ご配慮も賜った。ここに、記して感謝の意を表する次第である。

9. 本書の編集、遺物実測、図版トレースと本文・図版編の執筆は松本が行なった。

## 凡 例

1. 図中の方位は基本的に座標北をあらわしている。ただし、挿図第11図と図版 PL. 11・14は磁北を表している。
2. 本文および図版中の示したレベル高は、すべて T.P. + 値(m)であるが T.P. + は省略している。
3. 遺物番号は通し番号を付し、挿図と写真図版で統一している。
4. 文化財一覧表と PL. 1 の番号は一致させた。
5. 遺構の名称は、下記のとおりアルファベットの組み合わせによって表しているが、一部適当な呼称が見当たらないものは、そのまま日本語の名称によって呼称している遺構もある。  
SB 建物 SD 溝 SK 土坑 SX 性格不明遺構 Pit 柱穴
6. 本書中の西谷Ⅱ・西谷遺跡で使用した土壌色は、小山正忠・竹原秀夫編著『新版標準土色帖』1988を用いて命名しているが、本文中は色相・明度・彩度の数値を省略している。
7. 遺物実測図版では、断面の表示を便宜上、土師器—白抜き、須恵器—黒塗りに塗り分けた。
8. 遺物の出土量をあらわすために用いたコンテナは、内容積27.5ℓのものである。

# 目次

序文

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 位置と環境	2
第3章 尾田瀬Ⅱ遺跡の調査	4
第1節 既往の調査	4
第2節 92-1区の調査	4
第3節 92-2区の調査	6
第4節 92-3区の調査	10
第5節 92-4区の調査	11
第6節 92-5区の調査	12
第4章 西谷Ⅱ遺跡の調査	14
第1節 既往の調査	14
第2節 93-1区の調査	14
第3節 93-2区の調査	18

第4節 93-3区の調査 .....	19
第5章 西谷遺跡の調査 .....	20
第1節 既往の調査 .....	20
第2節 94-1区の調査 .....	20
第6章 まとめ .....	23
文化財一覧表 .....	25
報告書抄録 .....	巻末

# 挿 図 目 次

第1図	尾田瀬Ⅱ・西谷Ⅱ・西谷遺跡調査区位置図	3
第2図	尾田瀬Ⅱ遺跡92-1区出土の土器	5
第3図	尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区出土の土器・土製品	7
第4図	尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区出土の石製品	9
第5図	尾田瀬Ⅱ遺跡92-3区出土の土器・土製品	10
第6図	尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区SX01断面図	11
第7図	尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区出土の土器	12
第8図	尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区出土の石製品	12
第9図	西谷Ⅱ遺跡93-1区出土の土器・土製品	16
第10図	西谷Ⅱ遺跡93-1区出土の石製品	17
第11図	西谷Ⅱ遺跡93-2区SX01平面図・断面図	18
第12図	西谷Ⅱ遺跡93-2区出土の土器	19
第13図	西谷遺跡94-1区先行トレンチ断面図	20
第14図	西谷遺跡94-1区出土の土器	21
第15図	西谷遺跡94-1区出土の石製品	22

# 図 版 目 次

PL. 1	斐川町の文化財
PL. 2	尾田瀬Ⅱ遺跡92-1区第Ⅰ面平面図
PL. 3	尾田瀬Ⅱ遺跡92-1区第Ⅱ面平面図
PL. 4	尾田瀬Ⅱ遺跡92-1区断面図・SB01断面図
PL. 5	尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区平面図
PL. 6	尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区断面図・SB01断面図
PL. 7	尾田瀬Ⅱ遺跡92-3区平面図
PL. 8	尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区平面図
PL. 9	尾田瀬Ⅱ遺跡92-3・4区断面図
PL. 10	尾田瀬Ⅱ遺跡92-5区平面図・断面図
PL. 11	西谷Ⅱ遺跡93-1区平面図
PL. 12	西谷Ⅱ遺跡93-1区断面図
PL. 13	西谷Ⅱ遺跡93-1区遺構断面図

- PL.14 西谷Ⅱ遺跡93-2・3区平面図
- PL.15 西谷Ⅱ遺跡93-2・3区断面図
- PL.16 西谷遺跡94-1区平面図
- PL.17 西谷遺跡94-1区断面図
- PL.18 尾田瀬Ⅱ遺跡・尾田瀬Ⅱ遺跡92-1区第Ⅰ面
- PL.19 尾田瀬Ⅱ遺跡92-1区第Ⅱ面・92-2区
- PL.20 尾田瀬Ⅱ遺跡92-3区
- PL.21 尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区・92-5区
- PL.22 西谷Ⅱ遺跡プラント・オパール定量分析用土壌試料採取風景
- PL.23 西谷Ⅱ遺跡93-1区
- PL.24 西谷Ⅱ遺跡93-2区・93-3区
- PL.25 西谷遺跡94-1区・94-1区土層断面
- PL.26 西谷遺跡94-1区畦畔・牛の足跡
- PL.27 西谷遺跡94-1区牛の前肢跡・後肢跡
- PL.28 尾田瀬Ⅱ遺跡92-1区の出土遺物
- PL.29 尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区の出土遺物①
- PL.30 尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区の出土遺物②
- PL.31 尾田瀬Ⅱ遺跡92-3・4区の出土遺物
- PL.32 尾田瀬Ⅱ遺跡92-5区及び5区周辺の出土遺物①
- PL.33 尾田瀬Ⅱ遺跡92-5区及び5区周辺の出土遺物②
- PL.34 西谷Ⅱ遺跡93-1・2区の出土遺物
- PL.35 西谷遺跡94-1区の出土遺物

## 第1章 調査に至る経緯

麓川南部地区広域営農団地農道整備事業として、広域農道の建設に先立ち、昭和59年7月に鳥根県教育委員会が、予定地内の試掘調査を実施したところ、358本の銅剣が発見された。さらに、翌年の8月には銅剣出土地点から東へ7mの地点で銅鐻6個と銅矛16本が発見された。

これらの青銅器が発見された荒神谷遺跡は、全国から注目を浴び、その名が知られるところとなった。その結果、この遺跡のもつ重要性を考慮し、保存の要望が多方面から寄せられた。

鳥根県教育委員会と開発側は協議を重ね、斐川町が広域農道の新しい用地の確保と補償を引き受けることによって、現状保存の方向で決着した。

斐川町における荒神谷遺跡の整備に関連する動向としては以下のとおりである<sup>①</sup>。

昭和60年12月 「荒神谷周辺整備検討委員会」設置

昭和61年10月 「荒神谷遺跡周辺整備及び資料館建設準備会議」発足

12月 「荒神谷史跡指定地及び周辺整備計画」提出

昭和62年1月 「荒神谷遺跡」青銅器出土地を中心に1.3haが国史跡に指定

2月 「荒神谷遺跡及び周辺整備対策協議会」発足

10月 「荒神谷遺跡周辺整備及び資料館建設に関する提言書」提出

昭和63年2月 「荒神谷遺跡周辺整備事業懇談会」開催

4月 「荒神谷整備準備室」設置

5月 「町議会荒神谷整備特別委員会」設置

6月 「荒神谷遺跡周辺整備及び資料館建設基本構想委員会」設置

平成元年3月 「荒神谷遺跡周辺整備及び資料館建設基本構想」策定

11月 荒神谷遺跡第1期整備工事完成（出土地復元・銅剣複製設置）

平成2年2月 「荒神谷遺跡周辺整備及び資料館建設」を国・県に陳情

4月 「荒神谷整備準備室」を廃止、「文化課」を設置

10月 「県立古代博物館建設及び古代史公園整備促進」を県当局に陳情

12月 荒神谷遺跡第2期整備工事完成

（園路広場・観賞デッキ・ベンチ・案内板・説明板・銅鐻、銅矛複製設置）

平成3年7月 「県立古代博物館建設促進」を県当局・県議会に陳情

9月 荒神谷遺跡第3期整備工事（出土地復元補修・手摺り設置）

10月 「荒神谷史跡公園基本計画検討委員会」開催

平成4年3月 「荒神谷史跡公園基本計画」提出

平成4年4月から国史跡指定地を含む約27.5haを対象に発掘調査と並行して、3カ年の整備事業を実施し、平成7年5月に「荒神谷史跡公園」が完成した。

平成7～10年度は、報告書作成のための整理作業がおこなわれ、本書の刊行に至っている。

註 ① 斐川町「荒神谷史跡公園基本計画」1992

## 第2章 位置と環境

まず、斐川町全体を地形的に概観してみることにする。当町は鳥根県東部の宍道湖西岸に位置し、西から北にかけては、天井川といわれる第1級河川の斐伊川によって境を成し、南側については標高366mの仏経山（神名火山）を中心とした標高300m級の城平山、高瀬山、大黒山などの東西に連なる山地によって仕切られている。町面積の概ね50%は、斐伊川によって形成された沖積地で、斐伊川右岸に立地する町北部に展開する。残りの南側約50%は、山地を含め、山地から派生する低丘陵によって構成されている<sup>①</sup>。

遺跡の分布では、北側の沖積地にはほとんど存在せず、その大半が南側の山地や低丘陵地帯あるいは低丘陵に囲まれた谷部に集中している。

主要な遺跡の分布をみてみると、昭和59年に358本の銅剣が、翌年の昭和60年には6個の銅鐸と16本の銅矛が、それぞれ出土した荒神谷遺跡（国史跡指定）、全長48m以上の前方後円墳である神庭岩船山古墳（県指定文化財）や直径32m、高さ5mの円墳である小丸子山古墳（町指定文化財）、もともとは前方後円墳であったと考えられる軍原古墳などの古墳時代中期の古墳、正倉跡が確認されたことから、『出雲国風土記』にみられる出雲郡の郡家と推定されている後谷遺跡<sup>②</sup>、16世紀頃に出雲で勢力をふるっていた尼子氏の家臣で、出雲十旗の一つに数えられる米原氏が居城とした高瀬山の高瀬城も、この南部の山地から低丘陵地帯に立地する<sup>③</sup>。

青銅器が見つかった荒神谷遺跡を中心にして、本書で扱った遺跡も含め、周辺の遺跡群をみてみると、東側には須恵器の散布地として周知された佐利保谷・佐利保谷Ⅱの両遺跡、土師器や須恵器、土師質土器、青磁などの散布地として知られる神庭谷Ⅰ・神庭谷Ⅱ・神庭谷Ⅲなどの遺跡が存在する。また、西側には今回の調査地で、過去の調査では弥生土器が検出された西谷・西谷Ⅱ遺跡のほかに、須恵器の散布地である結西谷Ⅱ遺跡、縄文土器、土師器、須恵器などの散布地である武部遺跡、土師器や須恵器、石鏃などの散布地である三絡Ⅱ・三絡Ⅲ遺跡が確認されている。さらに南側にも、今回の調査地である尾田瀬Ⅱ遺跡のほかに、古墳時代後期以降の住居跡が確認された尾田瀬遺跡が立地している<sup>④</sup>。

これらの大部分の遺跡では、おもに古墳時代後期以降の所産である遺物が確認されているため、遺跡の密集地帯であるこのあたりは、古墳時代後期頃になると、かなりの人が生活していたものと思われる。現在のところ集落といえるような多数の住居址は認められていないが、遺跡の分布と遺物の量から判断すると、近くに大規模な集落の存在が想定できる。

今回の調査地はいずれも、現況は谷部の水田で、標高は10～30mを測る。古代の水田が存在する可能性を考慮して、ブラント・オパール定量分析のデータに基づいた調査を実施し、水田遺構の確認にも重点を置いた。

註 ① 斐川町史編纂委員会『斐川町史』1972

② 斐川町教育委員会『斐川町文化財調査報告15 後谷V遺跡』1996

③ 斐川町教育委員会『鳥根県斐川町遺跡分布調査報告書』1992



第1図 尾田瀬II・西谷II・西谷通跡調査区位置図

## 第3章 尾田瀬Ⅱ遺跡の調査

### 第1節 既往の調査 (PL. 1、第1図)

尾田瀬Ⅱ遺跡は、平成元年度に国庫補助事業として斐川町教育委員会が実施した町内遺跡分布調査で散布地として周知された遺跡である。昭和59年と翌60年に銅剣358本、銅鐔6個、銅矛16本が相次いで発見された国史跡指定の荒神谷遺跡から南へ約500mのところに位置する。

地形的には三方を低丘陵に囲まれた標高20～25m程度の谷部で、棚田状に水田が営まれている。平成元年度の分布調査では、水田の畦際から土師質土器が1点採集された<sup>①</sup>。

当該遺跡発見以来、今回初めてその地に発掘調査の手を加えることとなった。

### 第2節 92-1区の調査

#### 1. 層位 (PL. 4)

基本的な層位は、表土を剥くと東側ではすぐに暗黄灰色粘質土の地山が露呈するが、谷の中心方向である西側には数層の堆積層が確認された。また、一部に現在の水田面を形成する際に施されたと考えられる盛土が検出された。遺構面は計2面確認され、第Ⅰ面は6層から8層の上面で、第Ⅱ面は地山上面でそれぞれ遺構検出を行なった。

#### 2. 遺構 (PL. 2～4、18・19)

遺構面が計2面認められたのは先述のとおりである。

第Ⅰ面では直径8cmのものから、直径50cmの掘り方をもったものまで、多数のピットと長径80cm、短径40cmのほぼ楕円形を呈した土坑などを確認した。埋土はいずれも炭を含む暗灰色土である。

ピットについては残念ながら確実に建物として判断されるものは確認できなかったが、Pit 01～04は円形の直径が40～50cmで他のピットと比較すると大型なため、建物を構成するものである可能性が強い。

第Ⅱ面では総柱建物1棟、建物として確認されないピット、溝状遺構、土坑などを検出した。

総柱建物であるSB01は、桁行2間(3.4m)、梁行2間(3m)で、柱間は桁行が1.7m、梁行は1.5mである。面積は10.2㎡を測り、柱筋はほぼN-7°-Wを示す。SB02はSB01を構成するピットは、いずれもほぼ円形で、直径は20～40cmを測る。埋土は、褐灰色～暗褐灰色土である。

溝状遺構は3条確認された。SD01は全長が約4m、最大幅は40cm、深さは最大で6cmを測り、蛇行している。埋土は上層から暗褐灰色土、暗黄灰色土の2層で構成されている。SD02は全長が1.4m以上、最大幅は40cm、深さは最大で6cmを測る。埋土は上から暗褐灰色土、暗黄灰色土の2層である。遺構内にピットの一つ検出した。埋土と深さから判断して、SD02はSD01とつながるものかもしれない。遺構埋土中で土師器片を1点検出した。

土坑であるSK01は長径144cm、短径が48cmの不整形で、深さは最大で20cmを測る。埋土は暗褐灰

色土で、10cm大の礫をかなり密に含んでいる。遺構内より土師器片が1点出土した。

SX01は長径196cm、短径が60cmの紡錘形を呈し、深さは最大で7cmを測る。土坑あるいは溝の一部なのか明らかではない。

### 3. 遺物 (PL.28、第2図)

遺物は主に古墳時代後期頃の所産とおもわれるものが出土している。

1～4は須恵器の蓋である。

1は天井部が高く、口縁部に向かって内湾し、口縁端部は丸い。稜はやや鋭い。調整は天井部外面がヘラケズリ、天井部内面は回転ナデののちにナデを施し、その他の部分は回転ナデである。復元口径は12.0cmを測る。焼成は良好で内外面ともに灰色を呈し、胎土には1mm以下の砂粒を少量含む。第I遺構面下層の褐色混じり灰色粘質土より出土した。

2は復元口径13.2cmを測り、天井部と口縁部の境に稜線を有する。調整は天井部外面がヘラケズリ、その他の部分は回転ナデである。ただし、天井部内面は回転ナデののちにナデを施している。焼成は良好で、色調は内外ともに青灰色を呈する。胎土には1mm以下の砂粒を多量に含む。調査区南側の第I遺構面下層である褐色混じり灰色粘質土より出土した。

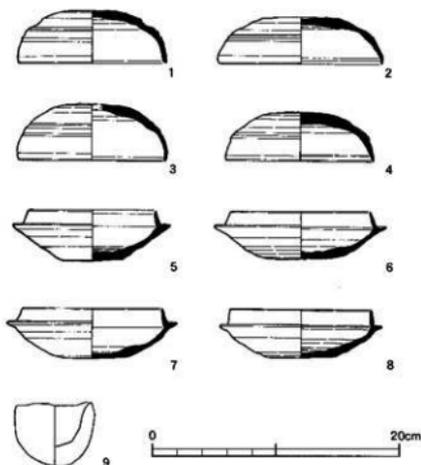
3は復元口径11.8cmを測り、天井部と口縁部の境目に沈線を2条有する。調整は天井部外面がヘラケズリでその他の部分は回転ナデである。焼成は良好で、内外面ともに灰白色を呈する。胎土には1mm大の砂粒を微量含む。調査区南側の地山直上層、暗褐色灰色粘質土より出土した。

4は復元口径12.0cmを測り、天井部から口縁部に向かっては内湾気味に下りる。また、天井部と口縁部の境に2条の沈線、口縁内面に1条の沈線をもつ。調整は天井部外面がヘラケズリ、天井部内面は回転ナデののちにナデが施され、その他の部分は回転ナデである。焼成は良好で、色調は内外面ともに灰色を呈する。胎土には1mm以下の砂粒を多量に含む。調査区南側の地山直上層、暗褐色灰色粘質土より出土した。

5～8は須恵器の杯である。

5は底部が平らで、受部はわずかに上方にのびる。たちあがりは内傾して、口縁端部はやや尖り気味である。調整は底部外面がヘラケズリ、底部内面は回転ナデののちにナデを施し、その他の部分は回転ナデである。復元口径10.4cm、胎土は密で、焼成は良好、内外面ともに灰白色を呈する。調査区南側の第I遺構面下層の褐色混じり灰色粘質土より出土した。

6は底部がほぼ平らで、受部は上方にのび、たちあがりは長く内傾している。口縁端部は尖り気



第2図 尾田瀬II遺跡92-1区出土の土器

味である。調整は底部外面がヘラケズリ、底部内面は回転ナデののちにナデが施され、その他の部分は回転ナデである。焼成は良好で内外面ともに褐灰色を呈し、胎土は1mm以下の砂粒を多量に含む。復元口径は11.2cmを測る。調査区南側の第I遺構面下層の褐色混じり灰色粘質土より出土した。

7は復元口径11.4cmを測り、底部がやや丸めで、受部は上方へのび、たちあがりはやや内傾してのびる。調整は大半が回転ナデを施しているが、天井部内面は回転ナデののちにナデの痕跡が残る。焼成は良好で色調は内面が灰色、外面が褐灰色で、胎土には1mm以下の砂粒を多量に含む。調査区南側の地山直上層である暗褐灰色粘質土より出土した。

8は受部がわずかに上方へのび、たちあがりは長く、やや内傾する。復元口径は11.4cmで、底部はほぼ平らである。調整は底部外面がヘラケズリ、底部内面は回転ナデののちにナデが施され、その他の部分は回転ナデである。焼成は良好、色調は内外面ともに青灰色を呈し、胎土は密である。調査区南側の地山直上層の暗褐灰色粘質土より出土した。

9は手づくね土器である。丸い底部から、わずかに内湾してたちあがり、口縁部に向けては、ほぼ直線的にのびる。口縁端部は尖り気味で、口径は6.1cmを測る。焼成は普通で色調は内外面ともに明赤褐色～黒褐色を呈する。胎土には1mm大の砂粒を多量に含む。調査区南側の第I遺構面下層の褐色混じり灰色粘質土より出土した。

### 第3節 92-2区の調査

#### 1. 層位 (PL. 6)

尾根裾から谷にかけてという地形的なこともあり、当然のことながら谷底方向への地山の傾きが認められた。当該調査区も92-1区と同様に水田を築く際に施されたと思われる層厚20～130cmの盛土が確認された。

この盛土の下に層厚10～110cmの淡灰色粘質土があり、その下に2～4層の堆積層である褐色の粘質土を介して暗黄灰色の地山に至る。遺構検出はこの地山上面で試みた。

#### 2. 遺構 (PL. 5・6・19)

遺構は、総柱建物1棟、建物として確認されないピット、溝状遺構が検出された。

SB01は、桁行が2間以上、梁行2間(4.2m)の総柱建物である。柱間は桁行1.8～2.1m、梁行2.1mである。柱筋はほぼN-13°-Wを示す。

SB01を構成するPit 01は長径36cm、短径32cmの楕円形で、深さは最大で、20cmを測る。埋土は褐色混じりの褐灰色土である。Pit 02は長径28cm、短径24cmのほぼ楕円形で、深さは20cmを測る。埋土は黄褐色混じり淡灰色粘質土である。Pit 03は直径30cmのほぼ円形で、深さは最大で16cmを測る。埋土は淡灰黄色混じり暗灰色土である。Pit 04は直径16cmのほぼ円形で、深さは40cmを測る。埋土は淡黄灰色混じり灰褐色土である。Pit 05は掘り方をもち、長径36cm、短径24cmの不整形で、柱痕は直径12cm、深さは最大で20cmを測る。埋土は掘り方が明黄褐色混じり黒褐色粘質土、柱痕は褐灰色粘質土である。Pit 06は長径30cm、短径24cmのほぼ楕円形で、深さは35cmを測る。埋土は黒褐色粘質土であ

る。Pit 07は直径28cmのはほぼ円形で、深さは最も深い部分で30cmを測る。Pit 08は長径26cm、短径18cmのはほぼ楕円形で、埋土は暗褐色灰色粘質土である。Pit 09は掘り方をもち、長辺30cm、短辺26cmで平面は隅丸方形に近い円形を呈し、最深部の深さは16cmである。柱痕の直径は28cmを測る。

SD01は、全長が約2mで、最大幅と最大深は不明である。埋土は黒褐色粘質土で粘性が強く、炭を少量含む。

### 3. 遺物 (PL.29・30、第3・4図)

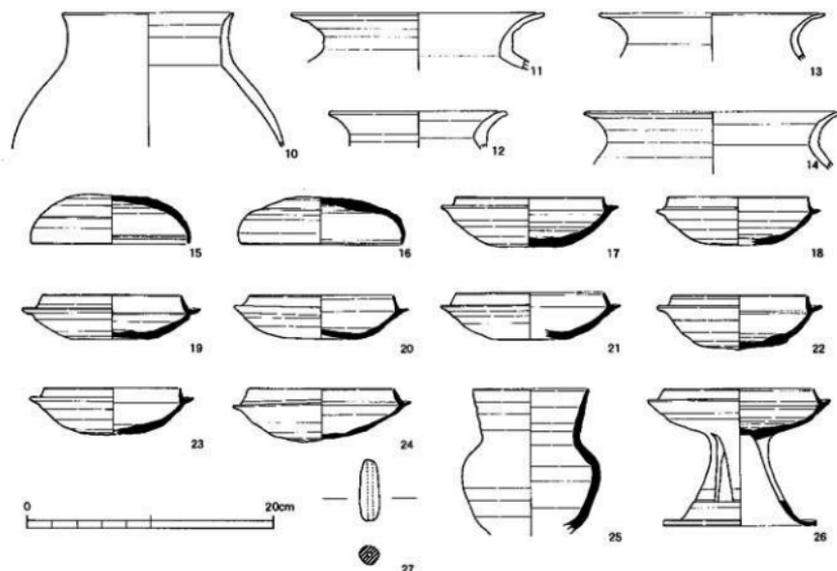
当該調査区から出土した遺物は土師器、須恵器、土錘、石鏃などである。

10は土師器の壺である。復元口径は13.8cmを測り、口縁端部に向けてはわずかに外反しながらのび、端部は尖り気味である。調整は磨滅により不明である。焼成は普通で色調は内外面ともに、にぶい橙色を呈し、胎土には1mm程度の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

11~14は土師器の甕である。

11は復元口径が20.6cmで、口縁部が大きく外反し、調整は磨滅により不明である。色調はにぶい橙色を呈する。胎土には1~3mm大の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

12は口縁部が大きく外反し、復元口径は14.6cmを測る。調整は磨滅により不明で、焼成は普通である。色調は橙色を呈し、胎土には1~3mm大の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。



第3図 尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区出土の土器・土製品

13は復元口径が14.4cmを測る。口縁部は大きく外反し、口縁端部は丸い。焼成は普通で、色調は灰白色を呈し、胎土には1～3mm大の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

14は口縁部が大きく外反し、口縁端部はやや尖り気味で、復元口径は21.0cmを測る。磨滅により調整は不明である。焼成は普通で、色調は灰白色を呈する。胎土には1～3mm大の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

15・16は須恵器の蓋である。

15は天井部が高く、口縁部へは内湾気味に下り、口径は12.7cmを測る。天井部と口縁部の境目と口縁部内面にそれぞれ沈線を1条有する。調整は天井部外面がヘラケズリ、その他の部分は回転ナデである。焼成は良好で色調は内外面ともに灰色を呈する。胎土は密で1mm以下の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

16は復元口径13.0cmを測り、天井部と口縁部の境目に2条の沈線と口縁部内面に1条の沈線をそれぞれ有する。焼成は良好で内外面ともに灰色を呈する。胎土には1mm以下の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

17～24は須恵器の杯である。

17は底部がやや丸みをおびている。受部はわずかに上方へのび、たちあがりは短く内傾する。調整は内面が回転ナデで、外面は磨滅により不明である。底部内面は回転ナデののちにナデが施されている。焼成は良好で色調は内面が灰色、外面は褐灰色を呈する。胎土には1mm程度の砂粒を多量に含む。復元口径は12.0cmを測る。淡灰色粘質土より出土した。

18は復元口径11.4cmを測る。受部がごくわずかに上方へのび、たちあがりはやや内傾する。底部はほぼ平らである。調整は底部外面がヘラケズリ、底部内面は回転ナデののちにナデの痕跡が認められる。その他の部分は回転ナデである。焼成は良好で色調は内外面ともに褐灰色を呈する。胎土には1mm以下の砂粒をわずかに含む。褐色粘質土より出土した。

19は受部が上方へのび、たちあがりは長く内傾して上がる。口縁端部は尖り気味であり、底部は浅く、やや凹む。調整は底部外面がヘラケズリ、底部内面は回転ナデののちにナデが施されている。その他の部分は回転ナデである。焼成は良好で色調は内面が青灰色、外面が灰色を呈する。胎土には1mm以下の砂粒を少量含む。復元口径は11.2cmを測る。褐色粘質土より出土した。

20は受部が上方へのび、たちあがりは長く内傾して上がる。口縁端部は丸く、口径は11.6cmを測り、底部は凹みをもつ。調整は大部分が回転ナデであるが、底部内面は回転ナデののちにナデが施されている。焼成は良好である。色調は内外面ともに褐灰色を呈し、胎土には1mm以下の砂粒をわずかに含む。褐色粘質土より出土した。

21は受部が上方へのび、たちあがりは内傾して上がる。口縁端部は丸く、底部は凹みをもつ。復元口径は12.0cmを測る。調整は大半が回転ナデであるが、底部内面については回転ナデののちにナデの痕跡が見受けられる。焼成は良好で色調は内外面ともに灰色を呈する。胎土には1mm以下の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

22は受部が上方へのび、たちあがりはやや内傾して上がる。口縁端部は丸い。復元口径は11.0cmを測る。調整は大部分が回転ナデであるが、底部外面は自然釉がかかるために不明である。焼成は良好

で色調は内外面ともに褐色を呈する。褐色粘質土より出土した。

23は復元口径が11.0cmを測る。底部がほぼ平らで、受部は上方へのび、たちあがりはずかには内傾する。口縁端部は尖っている。調整は底部外面がヘラケズリ、底部内面は回転ナデのちにナデが施されている。焼成は良好で色調は内外面ともに灰色を呈する。胎土には1mm以下の砂粒をわずかに含む。褐色粘質土より出土した。

24は受部が上方へのび、たちあがりはずかには内傾する。口縁端部は丸く、口径は11.7cmを測る。焼成は良好である。色調は内外面ともに灰色を呈し、胎土は1mm程度の砂粒をわずかに含む。褐色粘質土より出土した。

25は須恵器の直口壺である。頸部はやや外反して上がり、口縁端部に向かって、ほぼ直線的のびる。口縁端部は尖り気味である。復元口径は9.4cmを測る。調整は大部分が回転ナデであるが、外面の底部付近にヘラケズリの痕跡が認められる。焼成は良好で色調は内面が灰色、外面が灰色～暗灰色を呈する。胎土は1～2mm程度の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

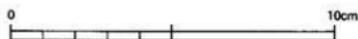
26は須恵器の高杯である。杯部のたちあがりはずかには内傾してのび、口縁端部はやや尖り気味である。脚部は外傾してのび、脚底部は短くさらに外反し、脚部には三方にスカシを有する。調整は大半が回転ナデであるが、杯部外面の一部にヘラケズリが認められる。焼成は良好で色調は褐色を呈する。胎土には1mm程度の砂粒を多量に含む。口径は12.2cmを測る。褐色粘質土より出土した。

27は筒状の土鏝である。全長5.0cm、最大径は1.8cm、孔径は4mmを測る。色調は橙色を呈し、焼成はやや不良である。胎土には1～2mm大の砂粒を多量に含む。褐色粘質土より出土した。

28・29は円基式の石鏝である。ともに褐色粘質土より出土した。

28は黒曜石製で全長が1.3cm、基部径1.1cm、最大厚3mm、重量は0.25gを測るやや小型の石鏝で基辺の凹みは2mmと浅く、側辺は基部に向かって、ごくわずかに内湾しながらのび、断面は三角形を呈する。

29は頁岩製と思われる、全長が1.9cm、基部径1.5cm、最大厚3mm、重量は0.7g、基辺の凹みは3mmを測る。側辺は基部に向かって、ごくわずかに内湾しながらのび、断面は台形に近い形である。



第4図 尾田瀬Ⅱ遺跡92-2区出土の石製品

## 第4節 92-3区の調査

### 1. 層位 (PL. 9)

現代耕土を除去すると、数層の堆積層を介在して、茶褐色の地山に至る。地形的に層位はわずかに傾きをみせ、谷底の方向へいくほど層厚は厚くなり、堆積層の数も増える。5層は水田をつくる際の盛土と考えられる。

遺構検出は地山上面で行なった。

### 2. 遺構 (PL. 7・20)

当該調査区では、掘立柱建物3棟と建物として確認されないピットが検出された。

SB01は桁行3間(6.2m)、梁行2間(4m)で、柱間は桁行2~2.6m、梁行2mで面積は24.8㎡である。柱筋はほぼN-3°-Eを示す。SB01を構成するPit 01、Pit 02埋土より、奈良~平安時代頃に位置づけられると思われる須恵器が出土した。

SB02は桁行3間(6m)、梁行2間(3.2m)で、柱間は桁行2m、梁行1.6mで面積は19.2㎡である。柱筋はほぼN-9°-Eを示す。SB02を構成するPit 03埋土より奈良時代以降のものと考えられる須恵器が出土した。

SB03は調査区外にのびるため、桁行は1間以上としか分からないが、梁行2間(4m)で、柱間は桁行2m、梁行1.6mである。柱筋はほぼN-13°-Wを示す。

### 3. 遺物 (PL.31、第5図)

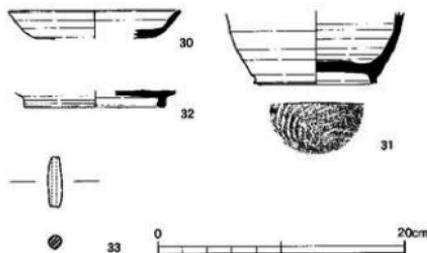
遺物としては、土師器、奈良~平安時代頃に位置づけられる須恵器、土錘などが検出された。

30は須恵器の杯である。やや浅めで、ほぼ平坦な底部から外反してたちあがる。口縁端部付近で屈曲し、口縁端部は丸い。調整は回転ナデである。焼成は普通で色調は内面が灰褐色、外面は灰褐色~褐灰色を呈し、胎土は密である。復元口径は14.0cmを測る。Pit 01埋土より出土した。

31は須恵器の壺と考えられる。高台をもち、調整は底部が回転糸切りののちにナデを施し、その他の部分は回転ナデである。焼成は良好で色調は内面が褐灰色、外面が灰色を呈し、胎土はやや粗く、2~3mm大の砂粒を多量に含む。Pit 02埋土中で検出された。

32は須恵器の杯あるいは壺の底部と考えられる。やや上げ底の底部に高台がつく、調整は磨滅により不明である。焼成は不良で色調は明褐灰色を呈し、胎土は密である。Pit 03埋土より出土した。

33は筒状の土錘である。全長が4.1cm、最大径は1.1cm、孔径は3mmを測る。色調はにぶい橙色を呈し、焼成は良好で胎土には1~2mm大の砂粒をわずかに含む。遺構面直上で確認された。



第5図 尾田瀬Ⅱ遺跡92-3区出土の土器・土製品

## 第5節 92-4区の調査

### 1. 層位 (PL. 9)

当該調査区も92-3区と同様に、耕作土を除去すると遺物包含層である灰色土や粘性の強い淡茶色粘質土などの堆積層を介して地山に至る。この地山は谷中心部に向けて、わずかな傾きをみせる。

遺構検出はこの地山上面で試みた。

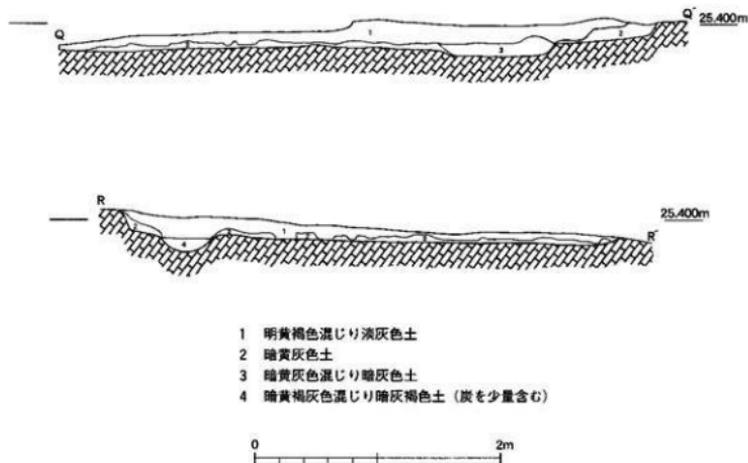
### 2. 遺構 (PL. 8・21、第6図)

遺構としては、調査区全体でピット、土坑、性格不明遺構などが確認された。

ピットは、直径12cm、深さ約3cmのものから長径36cm、短径28cm、深さ約10cmのものまで12カ所検出された。ほとんどが建物を構成するものではないと思われるが、SX01が竪穴住居とすれば、その内側にあるものは床面の柱穴である可能性も考えられる。

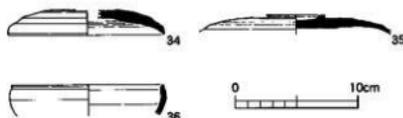
土坑は二つ確認された。SK01は長径1m、短径76cmで不整形を呈する。深さは約10cmを測る。SK02は、長径80cm、短径48cmのほぼ楕円形を呈する。深さは約10cmを測る。SK01、SK02ともに、遺構内で遺物が確認されなかったため、時期や性格は不明である。

SX01は、調査区外にのびるため全体の形は不明である。埋土は上層から明黄褐色混じり淡灰色土と暗黄灰色土の2層で構成されている。また、遺構内の縁に沿って幅40~160cm、深さが最大で20cmを測る溝状遺構が「く」の字状に検出された。埋土は暗黄灰色混じり暗灰色土、あるいは暗黄褐色



第6図 尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区 SX01断面図

混じり暗灰褐色土の単一層で暗黄褐色混じり暗灰褐色土には炭を少量含む。この溝状遺構を周溝として想定した場合、周溝内側の部分にはピットが検出されていることもあり、これらのことから判断すると、このSX01は方形の堅穴住居である可能性も考えられる。



第7図 尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区出土の土器

### 3. 遺物 (PL.31、第7・8図)

出土した遺物は土師器、奈良～平安期頃の須恵器、近世以降の染付、石鉢などである。

34・35は須恵器の蓋である。

34は復元口径が12.6cmを測り、ほぼ平らな天井部から、内湾気味に下がり、端部は尖っている。焼成は良好である。色調は内外面ともに明褐色を呈し、1～3mm大の砂粒をわずかに含む。SX01埋土の褐色混じり暗灰褐色土より出土した。

35は天井部がほぼ平らで輪状つまみがつき、口縁部に向かってやや内湾気味に下りる。焼成は良好で色調は褐色を呈し、胎土は1mm大の砂粒を少量含む。SX01埋土である褐色混じり暗灰褐色土より出土した。

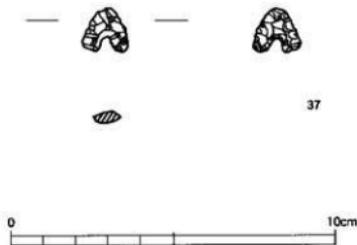
36は須恵器の杯である。復元口径は12.4cmを測り、焼成は良好である。色調は内外面ともに褐色を呈する。胎土には1mm程度の砂粒を多量に含む。SX01埋土である褐色混じり暗灰褐色土より出土した。

37は黒曜石製の凹台式の石鉢である。先端が欠損しているために、もとの全長と重量は不明であるが、基部径は1.4cm、基辺の凹みは4mmを測る。側面は基部に向かって恐らく直線的にのびるものと思われ、断面は菱形に近い形を呈する。SX01埋土の褐色混じり暗灰褐色土より出土した。

## 第6節 92-5区の調査

### 1. 層位 (PL.10)

茶褐色の現代耕土の下に、層厚6～32cmを測る茶灰色の砂質土、層厚12～45cmの暗緑灰色砂質土、層厚約4cmの黒色土、層厚56～80cmを測る暗緑灰色砂質土、層厚10～24cmでやや砂っぽい暗緑灰色粘質土、層厚4～20cmを測る暗灰色粘質土、この層の土壌からはプラント・オパール分析によって、多量のプラント・オパールが検出された。この層の下には、層厚8～45cmを測る暗灰色粘質土、層厚5～28cmの暗灰色粘質土が露呈する。この青灰色粘質土と暗灰色粘質土から廃棄されたと思われる炉壁片が検出された。この下層には層厚10～20cmの暗灰色砂



第8図 尾田瀬Ⅱ遺跡92-4区出土の石製品

質土、層厚6～16cmの青灰色粘質土、白灰色粘土と続く。これらの暗灰色砂質土、青灰色粘質土、白灰色粘土には大型の礫を含む。

## 2. 遺構 (PL.10・21)

遺構としては、畦状の高まり、溝状の落ち込み、杭列などのピットが検出された。

畦状の高まりは、高さが5～10cm程度で不定型を呈している。プラント・オパールが多量に検出されたことによって、水田の畦畔の可能性が強い。時期は、遺構周辺から出土した須恵器片で判断すると奈良～平安時代頃のものと思われる。

溝状の落ち込みは、調査区外に展開するために全体の形や幅は不明であるが、深さはおそらく20cm程度と思われる。溝状遺構とすれば、田越しの溝など、水田を営む際に何らかの役割を果たしたものと考えられる。

ピットは直径5～20cm程度のものが10カ所検出された。そのうちの三つは直径約5cmで杭跡と思われる。この杭列は、水田に伴うものかも知れない。

## 3. 遺物 (PL.32・33)

当該調査区では、土師器片、須恵器片、溶解炉の炉壁片が検出された。

炉壁片については、周辺の試掘トレンチからも出土し、その量は全部でコンテナ12箱に及ぶ。その出土状況から判断すると、何らかの理由で放棄されたものと思われる。またそれらとともに、土師質土器片、青磁片も出土している。

炉壁片から判断して、溶解炉の口径は50～60cm程で、モミガラヤスサのようなものをねり込み、6cm単位の輪積みで形成されていると考えられる。溶解した金属については不明である<sup>②</sup>。

註 ① 斐川町教育委員会『高根界斐川町遺跡分布調査報告書』1992

② 大澤正己氏・穴澤義功氏のご教示による。

## 第4章 西谷Ⅱ遺跡の調査

### 第1節 既往の調査 (PL. 1、第1図)

西谷Ⅱ遺跡は、地形的にみると丘陵部分と谷部分に分類することができる。谷部分についての現況は水田である。

当該遺跡は平成2年度に鏡川南地区広域営農団地農道整備事業に伴う試掘調査によって確認された遺跡である。この調査によって弥生土器、土師器、須恵器や加工痕が認められる木材が確認され、遺構としては溝状遺構が検出された。

平成4・5年度の調査では、谷部分から弥生土器が出土した。また、数条の溝状遺構や杭跡と思われるピットが確認された。丘陵部分では、蓋杯、高杯、甕などの須恵器が出土し、建物を構成するとと思われるピットや土坑が検出された。

今回の調査区は、三方向を低丘陵で挟まれた標高9～10m程度の谷あいには立地し、現況は水田である。

### 第2節 93-1区の調査

#### 1. 層位 (PL.12)

層厚20～40cmの表土の下層はかなり複雑に入り組んでいたが、層を形成する土壌がさほど汚れていなかったことと、遺物が認められなかったことにより、遺構検出は表土下の層の上面で試みた。

#### 2. 遺構 (PL.11・13・23)

遺構としては、溝状遺構、建物として確認されないピット、性格不明遺構などを検出した。

溝状遺構は、いずれも浅く、複雑に入り組んだ状態で検出された。なかには、自然にできた流路的なものも見受けられるが、その大半は人為的に掘られたものと考えられる。

SD01は幅40～120cmで、深さは20cmを測り、区画された様相を呈する。埋土は、ほとんどがマンガンを含んだ褐灰色シルトであるが、底部で部分的に、橙色や明赤褐色、褐灰色の粘性が強い粘質土が確認された。SD06、SD08につながる可能性も考えられる。特にSD08については、SD01と交わっているが、つながりが不明確なためにあえて別の遺構番号を付した。埋土中より土師器片、古墳時代後期頃の所産と思われる須恵器片が多数出土した。

SD02は幅40cm～64cmで、深さは10cm程度と非常に浅く、SD01と同様に意図的に掘られた形跡が見受けられる。埋土より土師器片、須恵器片、擂鉢と思われる陶磁器片が1点出土した。

SD03は調査区の西側から東側に向かって放射状にのびる。平面の形だけで判断するとSD01やSD02のように、いかにも人為的に掘られたというのではなく、地形から考えればどちらかといえば自然流路的なものかもしれない。埋土より土師器片、古墳時代後期から平安時代頃に位置づけされるとと思われる須恵器片が検出された。

SD04は幅60～140cm、深さは40cmを測り、埋土は褐灰色シルトである。下層あたりで急激に落ち込み、やや方向性の異なるSD07が検出された。埋土より土師器片、古墳時代後期頃の須恵器片が出土した。

SD05は幅18～28cmで深さは20cmを測り、埋土は褐灰色砂質土である。SD08に交わるような形で検出されたが、SD08との前後関係は明らかではない。埋土で須恵器片を1点確認した。

SD06は幅30～60cm、深さは12cm程度と浅く、平面は「T」字状を呈する。埋土は炭を少量含む、粘性が強い褐灰色粘質土である。位置と方向で判断すると、SD01あるいはSD08につながるものかもしれない。遺構内で遺物は確認されなかった。

SD07は幅30～40cmで、深さは40cmを測り、SD04の下層で検出された。SD04とは、やや異なる方向性を持ち、下層あたりから切り込んでいるため、単なるSD04の下層とは考え難い。SD01と切り合い関係にあり、SD01よりも時期が先行するものと思われる。埋土中より土師器片、古墳時代後期頃の須恵器片、土錘、砥石が出土した。

SD08は幅は18～120cm、深さは20cmで、埋土は褐灰色砂質土である。SD01につづくものかもしれないが、明確ではないため、あえて別番号を付した。埋土より須恵器が2点出土した。

SD09は北西から南東にのび、幅26～112cm、深さは24cmを測る。埋土は炭、マンガンを少量含む褐灰色シルトで、埋土中に遺物は確認されなかった。

溝状遺構の切り合い関係については、判然としない部分もあるが、明確に埋土の違いで判断できたものを挙げると、古い方からSD03、SD02、SD01の順である。SD07については、SD01より以前に位置づけられるが、その他の溝状遺構との切り合い関係がないために不明である。

ピットについては、遺構内で確認されたものも含めて調査区全体で85カ所検出されたが、そのほとんどが小規模で、残念ながら建物として確認できるものはなかった。

Pit 01は長径28cm、短径24cmの楕円形で、深さは最深部で12cmを測る。埋土は褐灰色粘質土で、埋土中より土師器片が1点出土した。

Pit 02はSD02内で検出された。長径28cm、短径26cmの楕円形で、深さは最深部で23cmを測る。埋土は炭を少量含んだ褐灰色粘質土で埋土より土師器片6点、染付1点が出土した。

SX01は長径264cm、短径80cmの不整形を呈し、深さは最深部で1.4mを測る。SD03の埋土上面から掘り込まれたものと思われ、検出面の埋土は炭、マンガンを多量に含んだ明赤褐色混じり褐灰色シルトであり、SD03の埋土である炭、マンガンを少量含む橙色混じり灰褐色シルトとは異なる。埋土より古墳時代中期頃の土師器片、奈良～平安時代頃の須恵器片が出土した。

SX02は調査区外へのびるために全体の形は不明であるが、一辺が3.2m、深さが約22cmで、カタからその深さへ向かってゆるやかに落ち込む。埋土は上層から黄灰色シルト、明褐色砂質土の2層で構成される。埋土中より土師器片、須恵器片、陶磁器1点が出土した。

SX03はSD03に接して検出された。幅10～20cmで、深さは10cm程度で、埋土より土師器の甕が1点出土した。

今回検出された遺構の時期については、現況が水田で、表土から80cm程度と比較的浅く、ローリングを受けている可能性が考えられる。なかでもSD02、SX02、Pit 02の埋土中から中世以降の陶磁器

片が各1点ずつではあるが検出されている。そのため、一概に遺物のみでの時期決定は困難であると思われる。

### 3. 遺物 (PL.34、第9・10図)

遺物は、遺構内より出土したものも含めて、土師器、古墳時代後期以降のものと思われる須恵器を中心に、陶磁器、土錘、石鏃、砥石なども検出された。

38は土師器の複合口縁の甕である。復元口径は15.4cmで複合口縁部は外反し、口縁端部はやや尖り気味である。調整は磨滅により不明である。焼成は普通で色調はにぶい橙色を呈す。胎土は1mm程度の砂粒を多量に含む。SX01埋土下層より出土した。

39は土師器の甕である。体部から口縁部に向かって、緩く「く」の字状に屈曲し、やや内湾気味にたちあがる。口縁端部はやや尖り気味である。復元口径は14.6cmを測り、調整は磨滅により不明である。焼成は普通で色調は内面が褐灰色、外面が淡橙色を呈し、胎土には1mm大の砂粒を多量に含む。SX03埋土より出土した。

40・41は須恵器の蓋である。

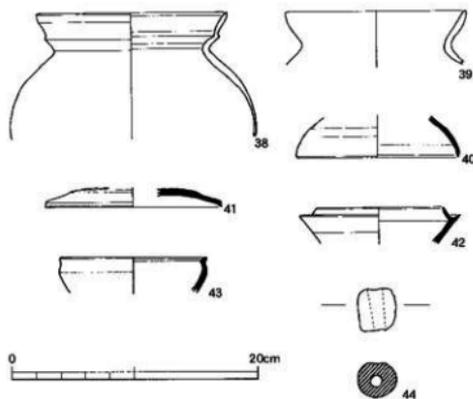
40は天井部から口縁端部に向かって、やや内湾しながら下がり、口縁端部付近でわずかに「く」の字状に屈曲する。調整は内外面ともに回転ナデで、復元口径は13.0cmを測る。焼成は良好で色調は内外面ともに灰色を呈する。胎土には0.5mm程度の砂粒を少量含む。SD07埋土より出土した。

41は天井部がほぼ平らで、つまみがつくものと思われる。復元口径は14.2cmを測る。調整は天井部外面はヘラケズリで、天井部内面は回転ナデののちにナデを施している。その他の部分は回転ナデである。焼成は良好で、色調は内面が灰黄褐色、外面が褐灰色である。胎土には0.5mm大の砂粒を多量に含む。SX01埋土より出土した。

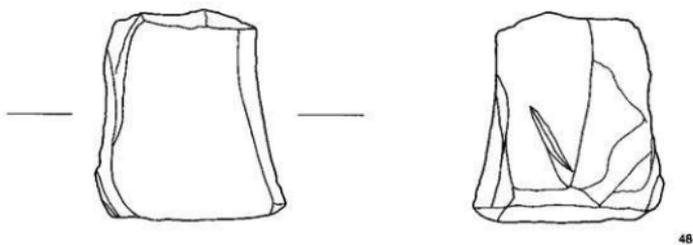
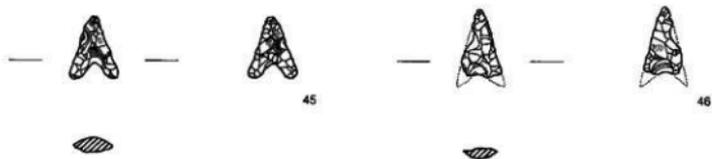
42・43は須恵器の杯である。

42は復元口径10.4cmを測り、受部が上方へのび、たちあがり内傾して、口縁端部はやや尖り気味である。調整は回転ナデで、焼成は良好で色調は内外面ともに青灰色を呈する。胎土は1mm程度の砂粒をわずかに含む。SX01埋土より出土した。

43は口縁部付近でくびれ、口縁端部に向けて外反する。口縁端部は丸く、復元口径は11.8cmを測る。調整は回転ナデで焼成は良好である。色調は内面が灰褐色で外面が褐灰色を呈し、胎土には1mm程度の砂粒をわずかに含む。SX02埋土より出土した。



第9図 西谷Ⅱ遺跡93-1区出土の土器・土製品



第10図 西谷Ⅱ遺跡93-1区出土の石製品

44は筒状の土錘と考えられる。大きさや形から判断すると紡錘車である可能性も考えられるが、ここでは土錘として扱う。全長3.5cm、最大径3.1cm、孔径は1.0cmを測る。焼成は普通で、色調はにぶい黄褐色～黒褐色を呈し、胎土には1mm程度の砂粒を多量に含む。SD07埋土より出土した。

45～47は黒曜石製の凹基式石鏃である。

45は全長1.9cm、基部径1.5cm、最大厚4mm、重量は0.75g、基辺の凹みは5mmを測る。側辺は基部に向かって直線的のび、断面は菱形を呈する。遺物包含層より出土した。

46は一部欠損しているためにもともの全長、基部径、重量など不明であるが、最大厚は3mmを測る。側辺は基部に向かってほぼ直線的のび、断面はレンズ状を呈する。遺物包含層より出土した。

47はやや大型で、全長2.7cm、基部径2.0cm、最大厚5mm、重量は1.2gを測る。断面はレンズ状を呈し、基辺の凹みは6mmを測る。遺構検出面直上より出土した。

48は砥石である。全長は6.5cm、最大幅5.5cm、重量は148gを測る。色調はにぶい黄褐色を呈する。SD07埋土より出土した。

### 第3節 93-2区の調査

#### 1. 層位 (PL.15)

基本的な層序としては、盛土を除去すると層厚10～50cm程度の褐色色まじり明褐色粘質土が露呈する。その下に層厚約40cmの明赤褐色がブロック状に混じった褐色粘質土が露呈し、その下層には層厚10～50cmの、やや粘性をもった灰オリブ色まじりの灰色砂質土、さらにその下には層厚8～36cmを測る遺物包含層である暗紫灰色粘質土、その下に灰色粘質土が露呈する。この灰色粘質土からはプラント・オパール定量分析の結果、プラント・オパールが多量に検出された。

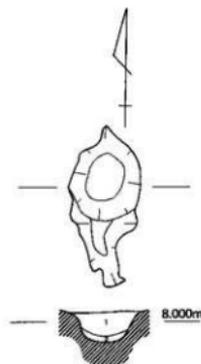
#### 2. 遺構 (PL.14・24、第11図)

プラント・オパールが多量に検出された灰色粘質土の上層である暗紫灰色粘質土層から水田遺構、特に畦畔の検出を試みたが、残念ながら水田遺構は確認できなかった。

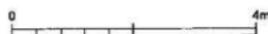
水田遺構は検出できなかったものの、遺構としては土坑状の性格不明遺構の一つ確認した。平面は長辺2.6m、短辺1.2mの不定型を呈し、深さは最深部で48cmを測る。埋土は上層から層厚40cmの有機物を少量含んだ黒色粘質土と層厚8cmで有機物を少量含み、砂っぽい暗灰色粘質土で構成される。埋土中より遺物が出土しなかったために性格や時期などは不明である。

#### 3. 遺物 (PL.34、第12図)

遺物包含層である暗紫灰色粘質土からは、須恵器、土師器、鉄滓などが出土した。土器についてはほとんどが細片で図化で



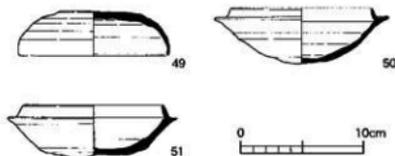
- 1 5Y 2/1 黒色粘質土(粘性大、有機物少量含む)
- 2 N 3/0 暗灰色粘質土(粘性小、砂っぽい、有機物少量含む)



第11図 西谷川遺跡93-2区 SX01平面図・断面図

きるものは僅かであった。

49は須恵器の蓋である。天井部はほぼ平らで口縁部は内湾して下りる。口縁端部は丸く、調整は天井部外面がヘラケズリ、天井部内面が回転ナデのちにナデ、その他の部分が回転ナデである。口径は12.2cmを測り、焼成は良好で色調は内外面ともに灰色を呈している。胎土には1mm程度の砂粒を多量に含む。遺物包含層である暗紫灰色粘質土より出土した。



第12図 西谷Ⅱ遺跡93-3区出土の土器

50・51は須恵器の杯である。ともに、遺物包含層である暗紫灰色粘質土より出土した。

50は受部がやや上方にのび、たちあがりは内傾している。口径は11.4cmを測る。調整は大部分が回転ナデで、胎土は密であり、焼成は良好で色調は内外面ともに灰色を呈する。

51は口径11.2cmを測り、受部がほぼ水平で、たちあがりは内傾してのび、口縁端部はわずかに丸みをおびる。調整は全般的に回転ナデであるが、底部は自然釉がかかり不明である。焼成は良好で色調は内外面ともに褐灰色を呈する。

## 第4節 93-3区の調査

### 1. 層位 (PL.15)

基本層序は盛土を除去すると層厚10~30cm程度の灰色粘質土、層厚4~20cmの灰色粘質土、層厚24~36cmの黄灰色粘質土、層厚4~28cmの灰色粘質土、その下に褐灰色粘質土の順で露呈する。この褐灰色粘質土よりプラント・オパール定量分析の結果、多量のプラント・オパールが検出された。

### 2. 遺構 (PL.14・24、第13図)

7層の褐灰色粘質土よりプラント・オパール定量分析の結果、多量のプラント・オパールが検出されたため、93-2区と同様に水田遺構の検出を試みたが、残念ながら遺構を確認することはできなかった。

### 3. 遺物

6層の灰色粘質土より須恵器片、土師器片が僅かに出土した。いずれも細片のために図化できるものはなかった。

## 第5章 西谷遺跡の調査

### 第1節 既往の調査 (PL. 1、第1図)

西谷遺跡は昭和58年に鳥根県教育委員会と斐川町教育委員会が実施した分布調査で、須恵器片の発見によって確認された遺跡である。

翌59年には、鳥根県教育委員会が簸川南広域農道建設に伴う事前調査を実施した結果、設定した2ヵ所のトレンチから古墳時代後期以降の土器が出土し、遺物包含層の存在が確認された。

また、同63年には合併浄化槽設置工事に伴い斐川町教育委員会が発掘調査を実施した。その結果、弥生時代後期後半頃の土器や古墳時代前期に位置づけされる古式土師器が出土する遺物包含層と幅60～80cm、深さ約40cmを測る溝状遺構が確認された<sup>1)</sup>。

当該調査区は昭和63年の調査区と同一の谷で、東へ50mのところに位置し、現況は水田が営まれている。また、プラント・オパール定量分析によって、水田遺構が包蔵されている可能性が最も高いとされた地区である。

### 第2節 94-1区の調査

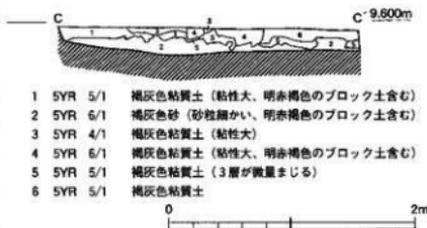
#### 1. 層位 (PL.17・25)

暗赤褐色の層厚10～20cmを測る現代耕土である第1層を除去すると、部分的には存在しない層もあるが基本的な層序として、第2層は層厚10～50cmの炭を少量含む灰オリーブ色シルト、第3層褐色まじり褐灰色粘質土、第4層炭を微量含む青灰色粘質土、第5層炭を微量含む黄褐色粘質土の順で露呈する。第1層から第3層まではローリングを受けた痕跡が認められた。第5層の黄褐色粘質土の下層には、第6層として褐灰色～黄灰色のやや砂っぽい粘質土が露呈するが、この層からは、プラント・オパール定量分析によって、プラント・オパールが多量に検出された。

そのため、第6層で水田遺構である畦畔を形成する可能性を想定して、第5層の黄褐色粘質土層で検出面全体のレベルを統一して、面的に1cmづつ掘削し、水田の畦畔の検出を試みた。

#### 2. 遺構 (PL.16・25～27)

遺構検出は、プラント・オパール定量分析のデータに基づき、水田遺構の確認に重点をおいて、検出につとめた。その結果、地表下約140cmで水田の畦畔を検出した。幅26～68cmで、平面は「Y」字状を呈している。畦畔の高さは高いところでも5cm程度で、決して安定した状態での検出とはいえない。残念ながら、一区画の規模や形は、調査区外へのびるために不明である。



第13図 西谷遺跡94-1区先行トレンチ断面図

また、遺構検出面では、畦畔の他に偶蹄目の動物の足跡も確認された。この偶蹄目の動物は、おそらく牛と思われる。牛耕がなされていたものか明らかではないが、直径13~14cmのほぼ円形で「C」字形あるいは「U」字形のもの、紡錘形または楕円形が二つならんだものの2種類が確認された。前者は前肢の蹄の跡で、後者は後肢の蹄の跡と思われる、両者を合わせると調査区全体で約550ヵ所確認された。なかには、直径5~6cm程度のももあり、仔牛の存在もうかがえる。形がある程度はつきりと認識できるもののみを検出したが、極論すれば、5層目の黄褐色粘質土層から6層目の褐色~黄灰色のやや砂っぽい粘質土層上面までの全てが遺構と考えられるほど、牛の歩行によってローリングを受けた形跡が認められた。

これらの遺構の時期については、第5層から出土した遺物によって判断すると、奈良~平安時代頃であると考えられる。

### 3. 遺物 (PL.35、第14・15図)

遺物は土師器、須恵器、石鏃などが検出された。土器については、いずれも細片で磨滅が著しく、図化に耐えるものは僅かであった。

52~55は須恵器の杯である。

52は復元口径14.6cmを測り、口縁部は内湾し、口縁端部付近でわずかにくびれ、口縁端部は丸い。調整は全般的に回転ナデである。焼成は良好で色調は内面が青灰色、外面が褐色を呈する。胎土はやや粗く、1mm程度の砂粒を多量に含む。第5層上面より出土した。

53は平坦な底部より、内湾してたちあがり、口縁部にむかってやや内湾気味にのびる。復元口径は12.2cmを測る。調整は全般的に回転ナデであるが、底部外面は糸切りの痕跡が残り、底部内面は回転ナデののちにナデが施されている。胎土は密で焼成は良好、色調は内面が灰色、外面は灰色~褐色を呈している。第4層下層から出土した。

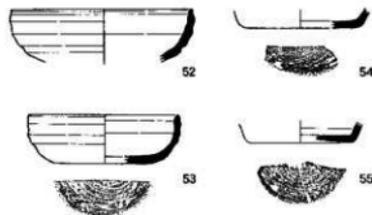
54は底部が平らで、糸切りの痕跡が認められる。焼成は良好で色調は内外面ともに褐色を呈す。胎土は1~2mm程度の砂粒を微量含む。第5層下層から出土した。

55はやや上げ底で底部外面には糸切りの痕跡が認められる。焼成は良好で色調は内外面ともに褐色を呈する。胎土には1mm程度の砂粒をわずかに含む。第5層下層より出土した。

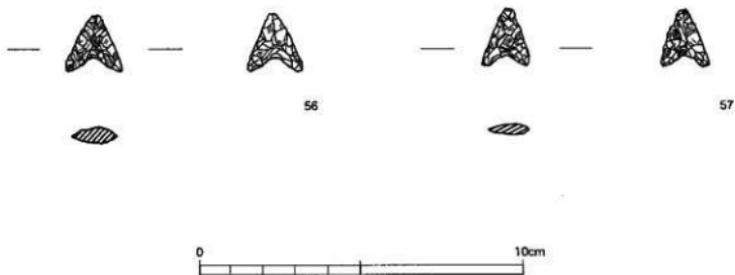
56・57は黒曜石製の凹基式の石鏃である。

56は先端がわずかに欠損している。全長は恐らく1.8~1.9cmになるものと思われ、基部径1.7cm、最大厚5mm、重量は0.8gを測る。断面はレンズ状を呈し、側辺は基部に向かって直線的にのび、基辺の凹みは4mmを測る。第6層上面で検出された。

57も先端がわずかに欠損している。全長は恐らく1.8~1.9cmになるものと思われる。基部径1.5cm、最大厚3mm、重量は0.45gを測る。断面はレ



第14図 西谷遺跡94-1区出土の土器



第15図 西谷遺跡94-1区出土の石製品

ンズ状を呈し、側辺は基部に向かって直線的のび、基辺の凹みは4mmを測る。畦畔付近の第6層上面で検出された。

註 ① 佐川町教育委員会「西谷遺跡緊急発掘調査報告書」1988

## 第6章 まとめ

今回の調査では、残念ながら荒神谷遺跡で発見された青銅器群に関連する時代の遺構、遺物は確認されなかった。しかし、荒神谷遺跡発見のきっかけとなった須恵器の時代における荒神谷周辺の様相を知る手がかりとして貴重な情報を得ることができた。また、自然科学的手法であるプラント・オパール定量分析のデータに基づいた発掘調査を実施したが、尾田瀬Ⅱ遺跡と西谷遺跡において水田遺構である畦畔を確認したことによって、必ずしも十分であったとはいえないが、その成果を上げることができたといえよう。以下、各遺跡の調査区ごとに調査の成果を簡単にまとめておきたい。

尾田瀬Ⅱ遺跡では、隣接した92-1～4区の調査区で古墳時代後期以降の所産といえる土器などの遺物やその時代頃に存在したと思われる掘立柱建物が全部で5棟検出された。時期的には、ピットなどの規模や柱筋の方向性、ピット内より検出された遺物から判断すると古墳時代後期頃と奈良～平安時代頃の概ね2時期に分けることができると考えられる。

古墳時代後期頃に位置づけされる建物としては、92-1区のSB01、92-2区のSB01、奈良～平安時代頃のものとしては、92-3区のSB01、SB02、SB03である。厳密には2時期以上に細分化されるかもしれないが、時期の判断が可能な範囲で分類した。

92-5区においては、奈良～平安時代頃に営まれた水田の畦と思われる遺構が確認され、プラント・オパール定量分析のデータの信憑性を裏づけることができた。また、92-5区及び付近の試掘トレンチで確認された包含層から出土した溶解炉の炉壁片は、その出土状況から判断すると放棄したものであると思われる。荒神谷遺跡で発見された青銅器との関係が注目されるが、溶解炉が営まれた時代は共伴して出土した土器片と炉の作り方から判断して、中世頃と比較的新しいものであることは明らかであり、青銅器との関連はないものと思われる。

西谷Ⅱ遺跡では、93-1～3区の各調査区で、主に古墳時代後期以降の遺物を確認した。当該遺跡においてもプラント・オパール定量分析のデータを用いた発掘調査を行なったが、残念ながら、水田の畦畔を確認することはできなかった。しかし、遺構としては、93-1区において、数条の溝状遺構が重なって検出された。そのうち最低でも2条は、形から判断して、明らかに何らかの目的をもって掘られたものと思われるが水田遺構といえるものかどうかは判然としない。厳密な性格や時期については、今後の検討を必要とする。

西谷遺跡94-1区でも、プラント・オパール定量分析のデータに基づく調査を実施した結果、分析データに裏づけされる水田の畦畔を確認することができた。また、牛のものと思われる蹄の跡は、鳥根県内では報告例がなく、初見である。残念ながら歩幅や蹄跡の規模から牛の大きさを割り出すまでは至らなかった。

現在の国内の牛は明治時代の外国品種との交配による品種改良で、日本古来のものに比べるとかなり大型化しており、わずかに山口県の見島牛（天然記念物）、鹿児島県の口之島牛などに日本古来からの在来種の姿をみることができる。見島牛の体高平均が雌1.17m、雄1.25mであり、おそらく西谷遺跡で検出された蹄跡の主の体高は、この程度ではないだろうか。いずれにしても、当該遺跡の調査によって出雲における奈良～平安時代頃の農耕文化を知る上で、新たな情報を加えることができたこ

とは間違いないであろう。

今回の各遺跡の発掘調査によって、多くの知見が得られたことは、あらためて言うまでもない。しかし、先述したとおり、荒神谷遺跡で発見された青銅器群に関連する情報を得ることができなかったのは非常に残念な結果である。今後の周辺部のさらなる調査と研究によってデータが蓄積され、遺跡の内容究明が進むことに期待したいと思う。

最後に、自然科学的手法による分析データに基づいた発掘調査は遺跡の性格を引き出す手段としてこれからも急速に考古学的調査に取り入れられることは間違いない。調査技術が着実に進歩している状況の下で、このような高度な技術に対応し、駆使するための自己研鑽の必要性をいまさらながら再認識している次第である。遺跡のもつ情報を収拾するという重い責務を負っている我々は、出来る限りデータ蓄積に寄与しなければならないということを今後の新たな調査実施に先立ち再確認しておきたい。

文化財一覧表

遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称
1	平野 I 遺跡	36	上学頭古墳群	71	石橋古墳群
2	軍原古墳	37	軍原千人塚古墳	72	堀切古墳群
3	軍原丘上古墳群	38	鍛冶屋横穴	73	堀切 I 遺跡
4	大井城跡	39	西光院横古墳	74	堀切 II 遺跡
5	大倉横穴群	40	武部西古墳群	75	堀切 III 遺跡
6	小丸子山古墳	41	結城古墳	76	新屋敷古墳
7	大井古墳	42	貴船古墳	77	新市 I 遺跡
8	神庭岩船山古墳	43	コモゴ山横穴群	78	新市横穴群
9	神庭古墳群	44	後谷古墳	79	斐川公園内古墳群
10	岩野原古墳群	45	登道古墳	80	平野 II 遺跡
11	剣山横穴群	46	稲城横穴	81	神守古墳群
12	外ヶ市古墳	47	御射山横穴群	82	水室 I 遺跡
13	出西小丸古墳群	48	龜山横穴	83	水室 II 遺跡
14	岩野原横穴群	49	後谷東古墳群	84	神水古墳群
15	稲城古墳群	50	武部東古墳	85	神守 I 遺跡
16	山ノ奥横穴群	51	白塚古墳	86	和西 I 遺跡
17	海の平横穴群	52	水越古墳	87	城山東古墳群
18	八幡宮横穴	53	城平山城跡	88	外ヶ市 I 遺跡
19	岩樋上横穴	54	城山古墳群	89	神守 II 遺跡
20	岩海横穴群	55	平野古墳群	90	新在古墳
21	岩海古墳	56	三井古墳	91	長者原古墳群
22	高野古墳群	57	結遺跡	92	上出西 I 遺跡
23	武部遺跡	58	西光院裏古墳群	93	上出西 II 遺跡
24	武部西遺跡	59	結西谷 I 遺跡	94	剣先横穴群
25	布子谷古墳	60	結西谷 II 遺跡	95	後谷横穴群
26	横手古墳	61	直江石橋 I 遺跡	96	後谷 I 遺跡
27	下阿宮古墳	62	結西谷古墳群	97	後谷 II 遺跡
28	阿宮公民館後古墳	63	西古墳群	98	後谷 III 遺跡
29	葛田横穴群	64	欠ノ元城跡	99	後谷 IV 遺跡
30	高瀬城跡	65	湯谷城跡	100	神水三ノ田古墳群
31	狼山城跡	66	中前古墳	101	中出西 I 遺跡
32	出西・伊波野一里塚	67	結本谷 I 遺跡	102	山ノ奥 I 遺跡
33	沢田横穴群	68	結本谷 II 遺跡	103	沢田 I 遺跡
34	出西岩樋跡	69	西中学校横遺跡	104	下阿宮 I 遺跡
35	御射山古墳群	70	本谷遺跡	105	下阿宮 II 遺跡

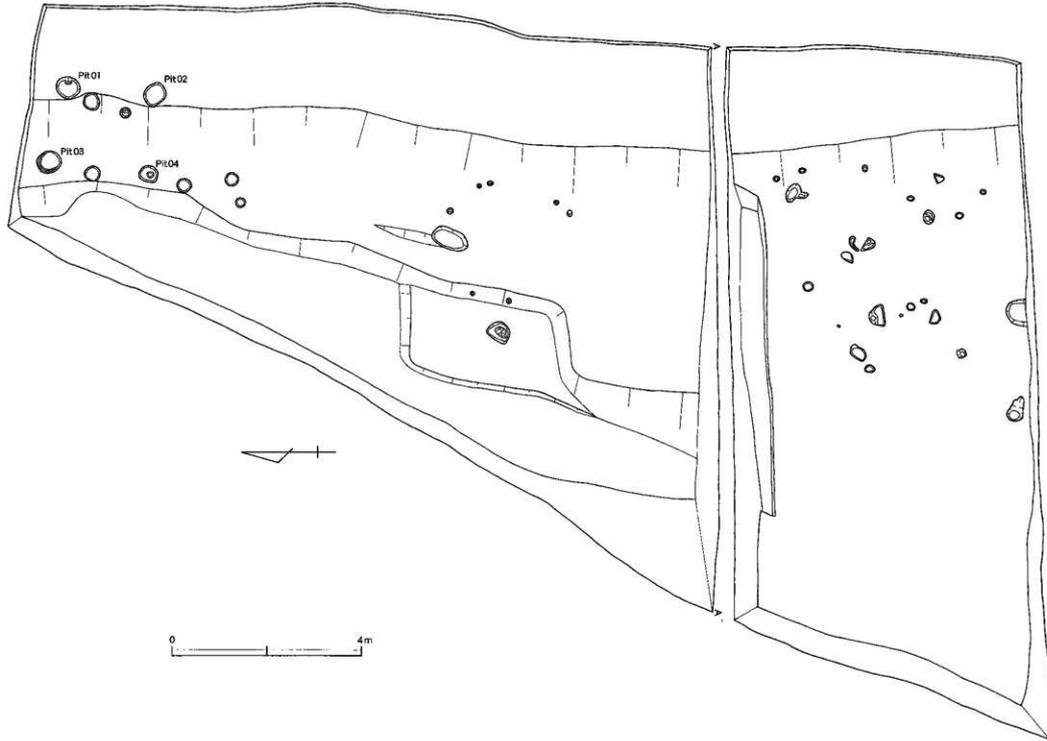
文化財一覧表

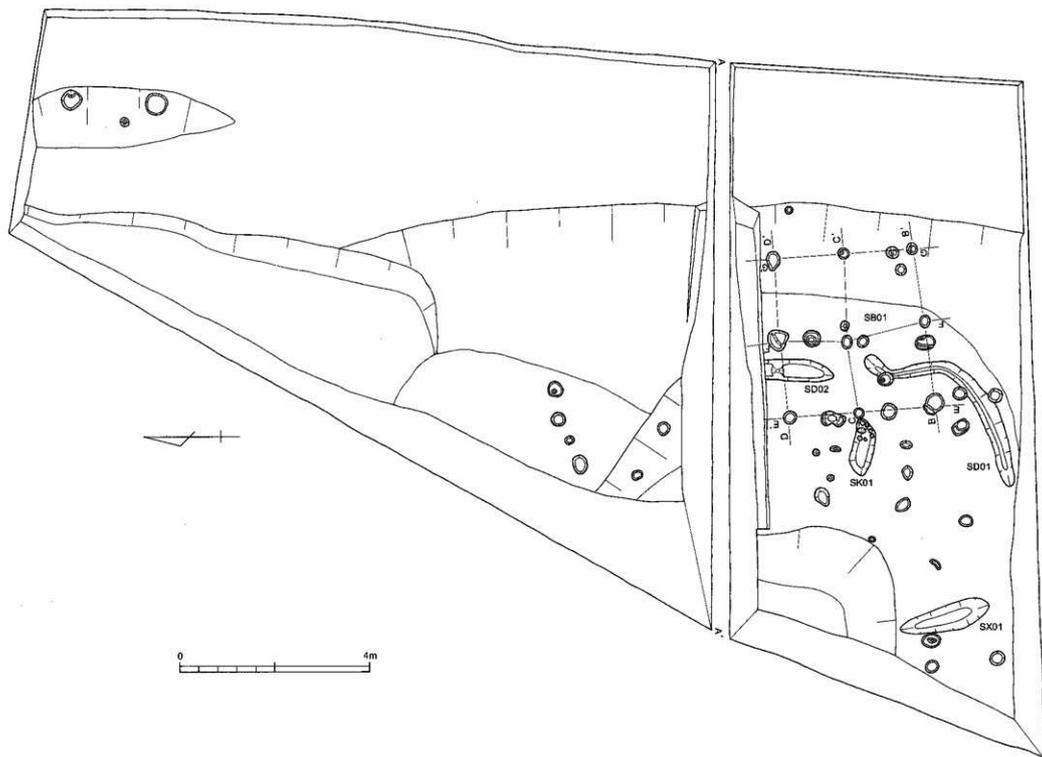
遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称	遺跡番号	名 称
106	立栗山城跡	137	岡瓦窯跡	172	西谷Ⅱ遺跡
107	後谷町道脇古墳	138	岡田瓦窯跡	173	龜山城跡
108	吉成古墳群	139	平野横穴群	174	神守城跡
109	貴船Ⅰ遺跡	140	新市Ⅱ遺跡	175	堀切瓦出土地
110	古殿古墳群	141	新市Ⅲ遺跡	176	欠ノ元Ⅰ号墳
111	興古墳	142	福富遺跡	177	大倉城跡
112	佐利保谷遺跡	143	水室Ⅳ遺跡	178	宇屋谷城跡
113	神庭西谷古墳群	144	三絡Ⅰ遺跡	179	宇屋谷Ⅱ遺跡
114	諏訪神社前遺跡	145	三絡Ⅱ遺跡	180	神庭谷Ⅲ遺跡
115	宇屋谷遺跡	146	三絡Ⅲ遺跡	181	尾田瀬Ⅱ遺跡
116	水室Ⅲ遺跡	147	三絡Ⅳ遺跡	182	三絡Ⅴ遺跡
117	神庭西谷Ⅰ遺跡	148	三絡Ⅴ遺跡	183	三絡Ⅸ遺跡
118	神庭西谷Ⅱ遺跡	149	三絡Ⅵ遺跡	184	興遺跡
119	斐伊川鉄橋遺跡	150	三絡Ⅶ遺跡	185	三絡Ⅹ遺跡
120	神庭谷Ⅰ遺跡	151	結西谷Ⅲ遺跡	186	三絡Ⅺ遺跡
121	神庭谷Ⅱ遺跡	152	軍原Ⅰ遺跡	187	祇園原遺跡
122	西谷古墳群	153	八斗薨Ⅰ遺跡	188	結本谷Ⅲ遺跡
123	西谷遺跡	154	八斗薨Ⅱ遺跡	189	結城跡
124	荒神谷遺跡	155	田中古墳群	190	和西Ⅱ遺跡
125	神庭丘陵北遺跡	156	天寺平廃寺	191	小野遺跡
— 1	御射山地区	157	三角点古墳	192	押屋古墳群
— 2	岡地区	158	稲城丘陵古墳群	193	後谷丘陵古墳群
— 3	中溝地区Ⅰ	159	城山城跡	194	中出西Ⅱ遺跡
— 4	中溝地区Ⅱ	160	狼山土師器出土地	195	海の平遺跡
126	上学頭Ⅰ遺跡	161	鷹の巣城跡	196	郡家(長者原)推定地
127	上学頭Ⅱ遺跡	162	尾田瀬遺跡	197	後谷(V)遺跡
128	大倉Ⅰ遺跡	163	佐利保谷Ⅱ遺跡	198	稲城遺跡
129	大倉Ⅱ遺跡	164	結南遺跡	199	上阿宮Ⅰ遺跡
130	大倉Ⅲ遺跡	165	直江石橋Ⅱ遺跡	200	上阿宮Ⅱ遺跡
131	大倉Ⅳ遺跡	166	有馬谷遺跡		
132	綿田原Ⅰ遺跡	167	有馬谷Ⅱ遺跡		
133	綿田原城跡	168	三井Ⅰ遺跡		
134	綿田原古墳群	169	門原池遺物散布地		
135	三分市館跡	170	西谷池遺物散布地		
136	寿山窯跡	171	三斗薨遺跡		

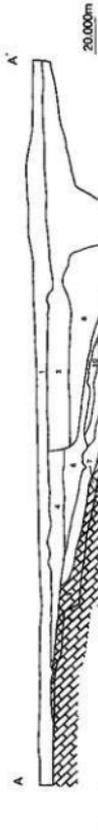
圖 版





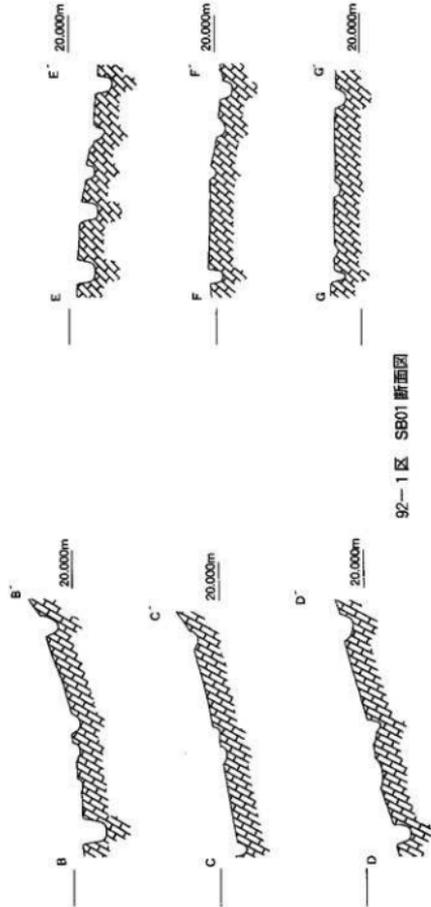






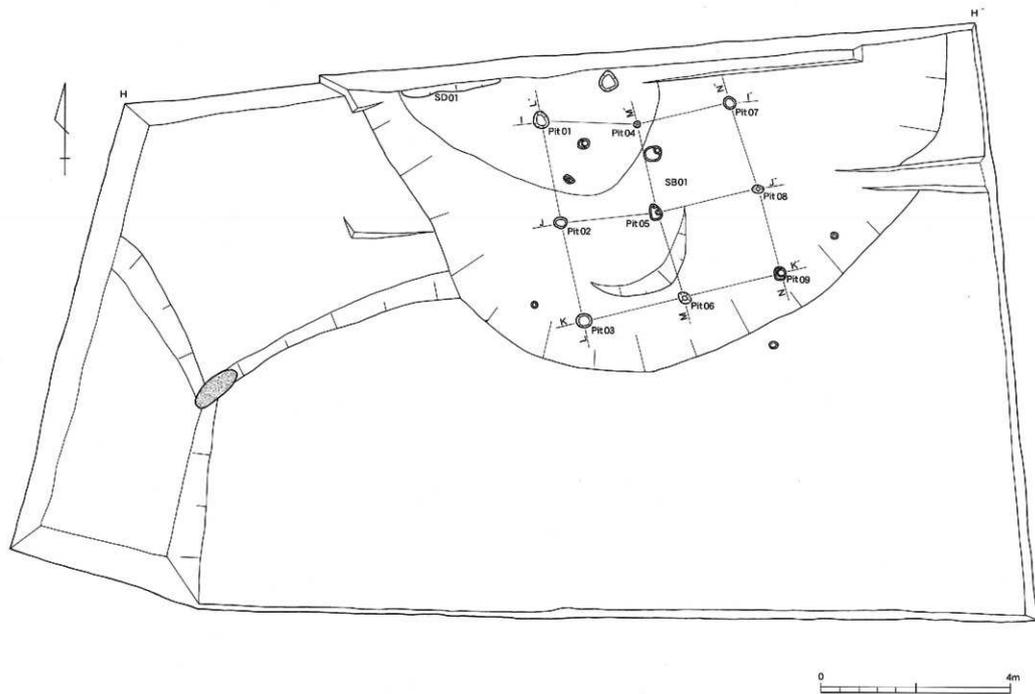
- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 1 礫土               | 6 褐色澄じり暗灰色粘質土            |
| 2 砂土               | 7 暗灰色色澄じり暗褐色粘質土          |
| 3 暗褐色粘質土 (堆山)      | 8 褐色澄じり赤灰色粘質土 (炭を少量含む)   |
| 4 赤灰色粘質土           | 9 赤褐色粘質土 (炭を少量含む)        |
| 5 暗褐色粘質土 (炭を多量に含む) | 10 褐色澄じり暗褐色粘質土 (炭を多量に含む) |

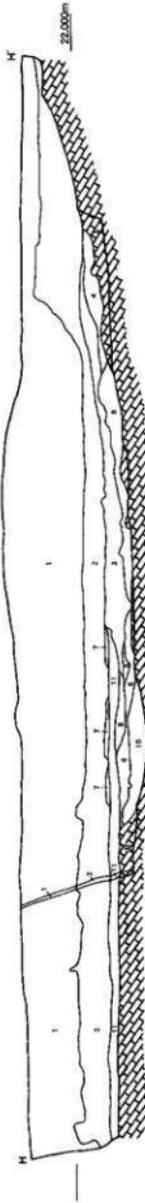
92-1区 断面図



92-1区 SB01断面図







- 1 礎土
- 2 淡灰色粘質土
- 3 赤褐色粘質土(粘雫水、炭化少量含む)
- 4 暗褐色粘質土(粘雫水、炭化少量含む)
- 5 暗褐色粘質土(粘雫水、横山)
- 6 褐色泥状粘質土(炭化少量含む)
- 7 淡灰色泥状粘質土
- 8 黄褐色土(1~2cm 木の屑を多量に含む)
- 9 暗褐色土(1.5mm 目のクアルキを多量に含む、炭化少量含む)
- 10 黄褐色粘質土(粘雫水、炭化少量含む、SD01層土)
- 11 暗灰色泥状粘質土(炭化少量含む)
- 12 黄褐色土(2~4cm 木のクアルキを多量に含む、横山)

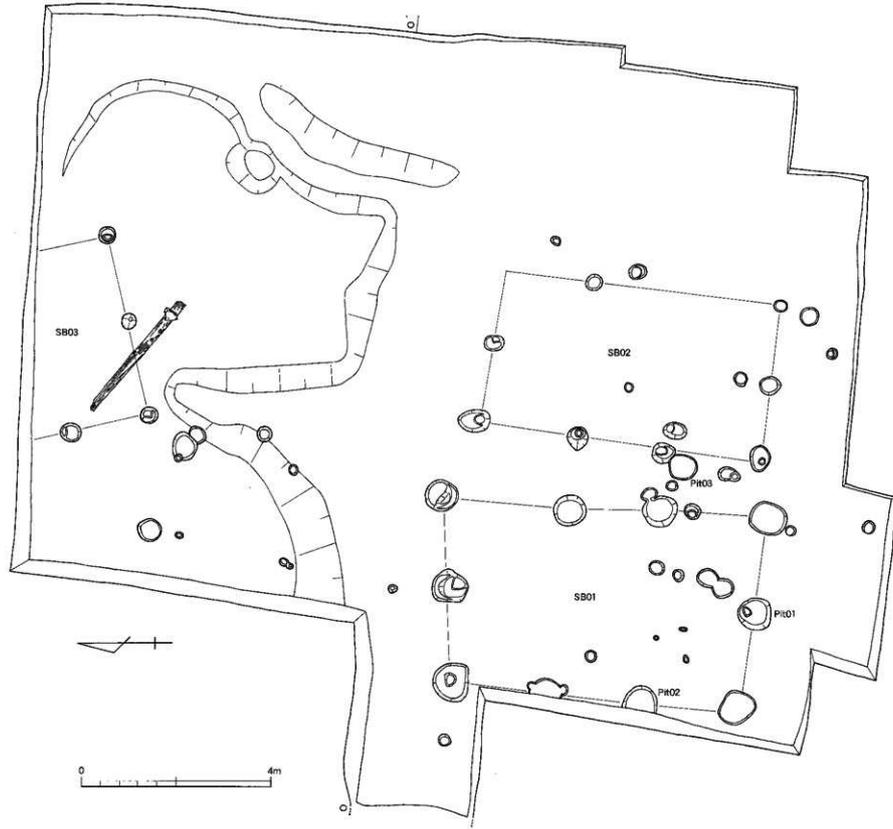
92-2区 断面図

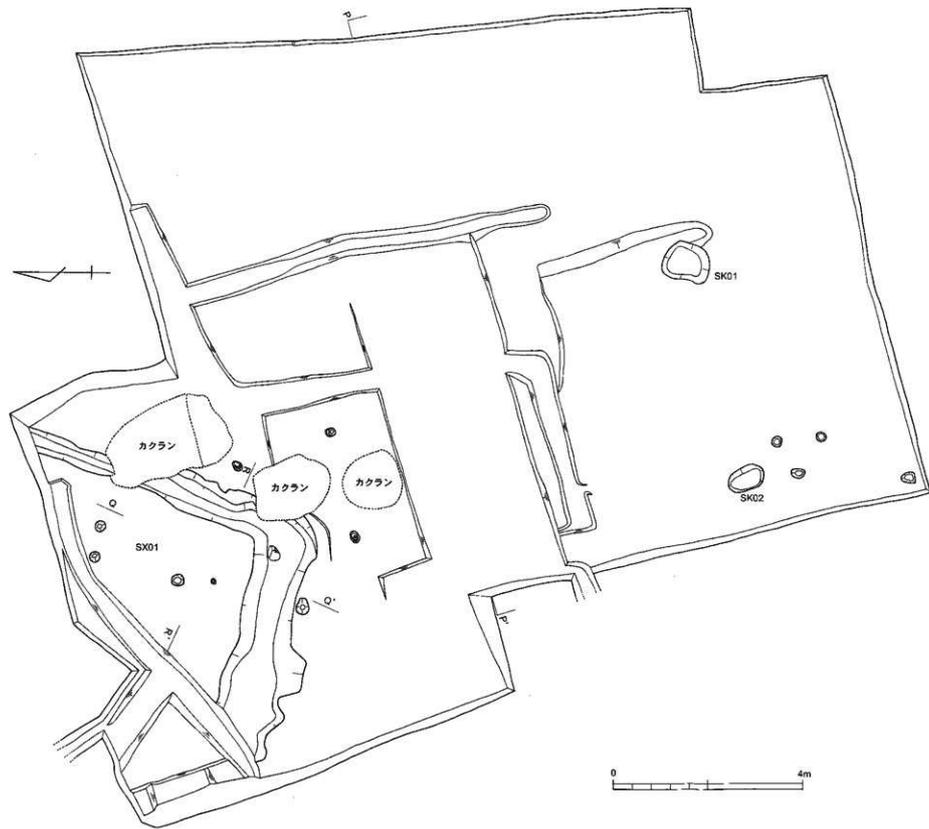


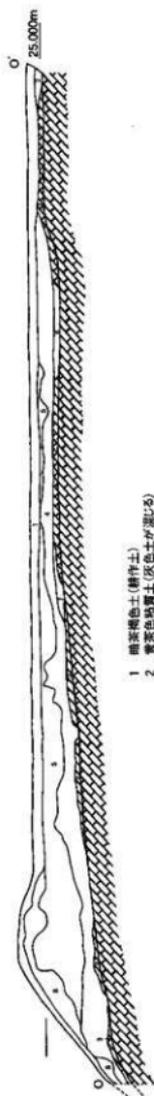
92-2区 SB01断面図





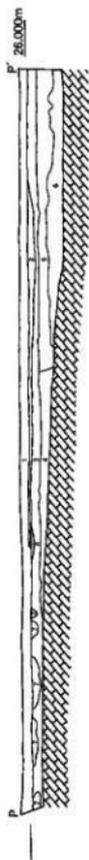






- 1 暗茶褐色土(耕作土)
- 2 黄褐色粘質土(灰色土が混じる)
- 3 茶褐色土(埋込)
- 4 灰色土
- 5 黄褐色土(灰色土がブロック状に入る)
- 6 黄褐色土
- 7 暗茶褐色土
- 8 暗茶褐色土(灰色土が混じる)

92-3区 断面図

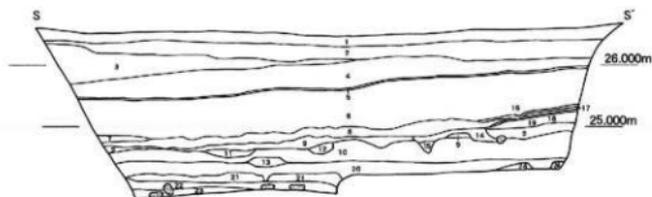


- 1 茶褐色土(耕作土)
- 2 黄褐色粘質土(灰色土が混じる。黏性小)
- 3 灰色土(遺物が多(含む))
- 4 黄褐色粘質土(粘性大)
- 5 淡灰褐色土
- 6 赤褐色粘質土(粘性大)
- 7 黄褐色粘質土(粘性大)
- 8 黄褐色土

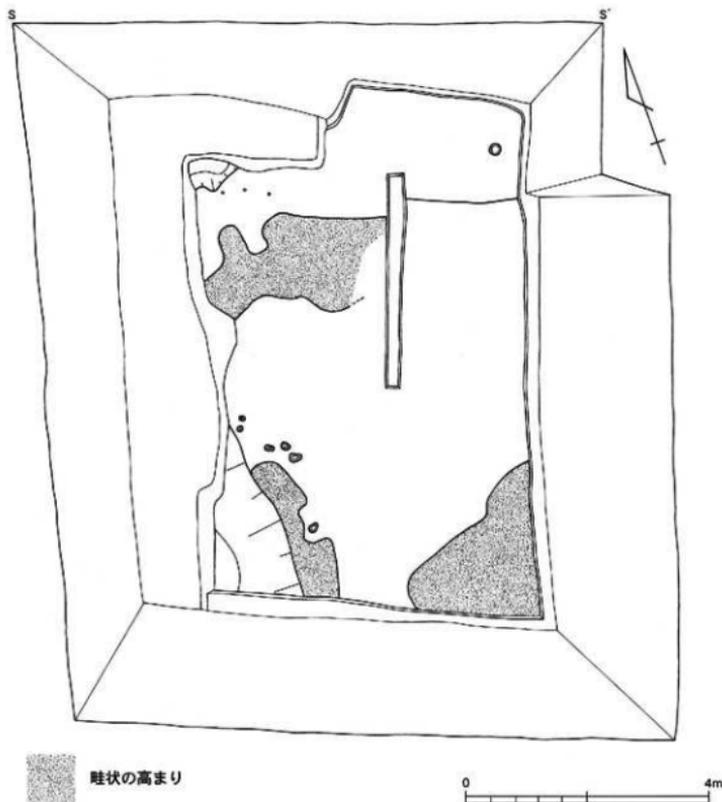
92-4区 断面図

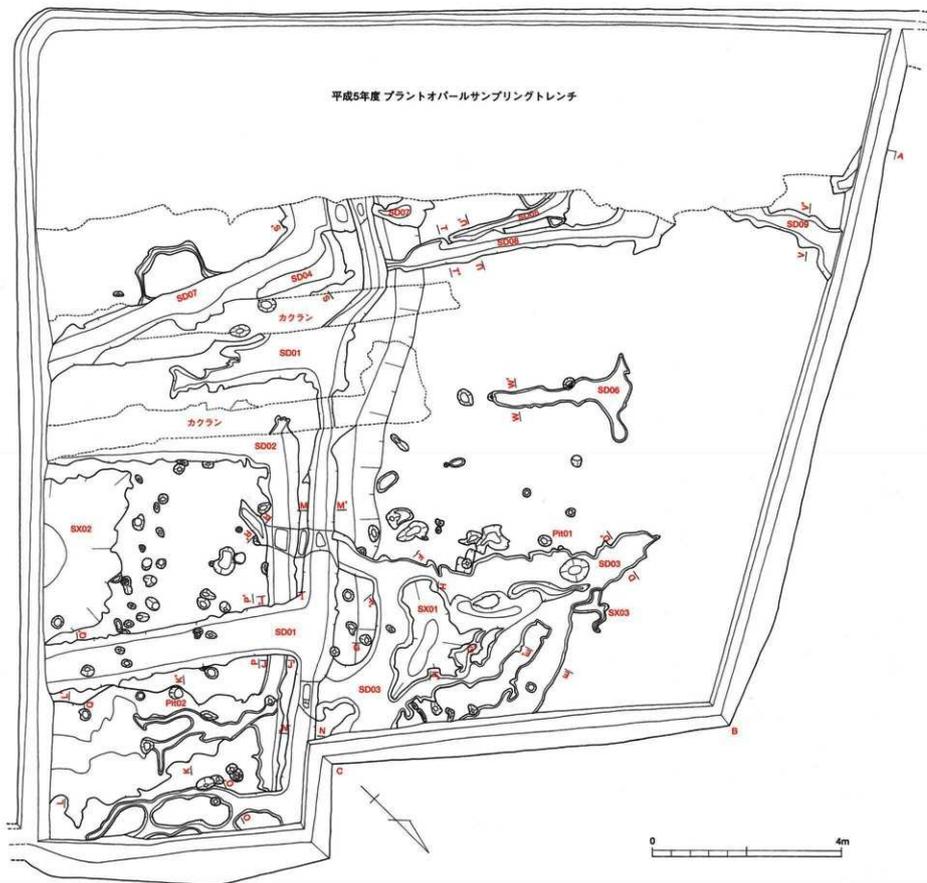


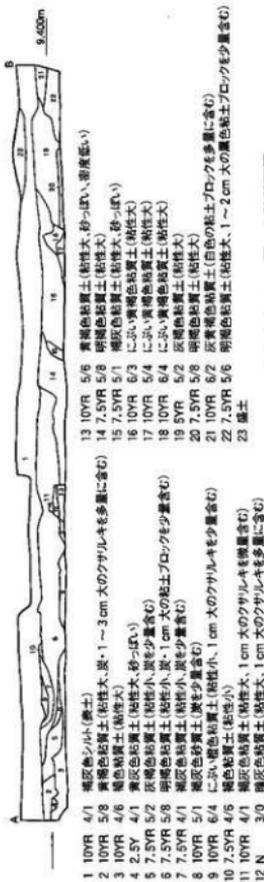




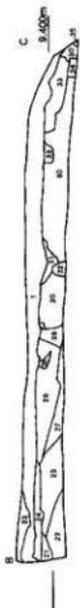
- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1 茶褐色土(耕作土)           | 13 灰褐色土(炭を多量に含む)       |
| 2 茶灰色砂質土              | 14 暗緑灰色粘質土             |
| 3 暗灰色土                | 15 暗灰色粘質土              |
| 4 暗緑灰色砂質土             | 16 茶灰色粘質土              |
| 5 紫色土                 | 17 暗緑灰色粘質土             |
| 6 暗緑灰色砂質土             | 18 暗緑灰色粘質土             |
| 7 黄灰色砂質土              | 19 茶灰色粘質土              |
| 8 暗緑灰色粘質土(砂っぽい)       | 20 暗灰色粘質土(粘性小、炭、伊壁を含む) |
| 9 暗灰色粘質土(プラントオパール様出層) | 21 暗灰色砂質土(大きなレキを含む)    |
| 10 黄灰色粘質土(伊壁、炭化物を含む)  | 22 黄灰色粘質土(大きなレキを含む)    |
| 11 黄灰色砂質土             | 23 黄灰色砂礫土(大きなレキを含む)    |
| 12 茶褐色土               | 24 白灰色粘土               |







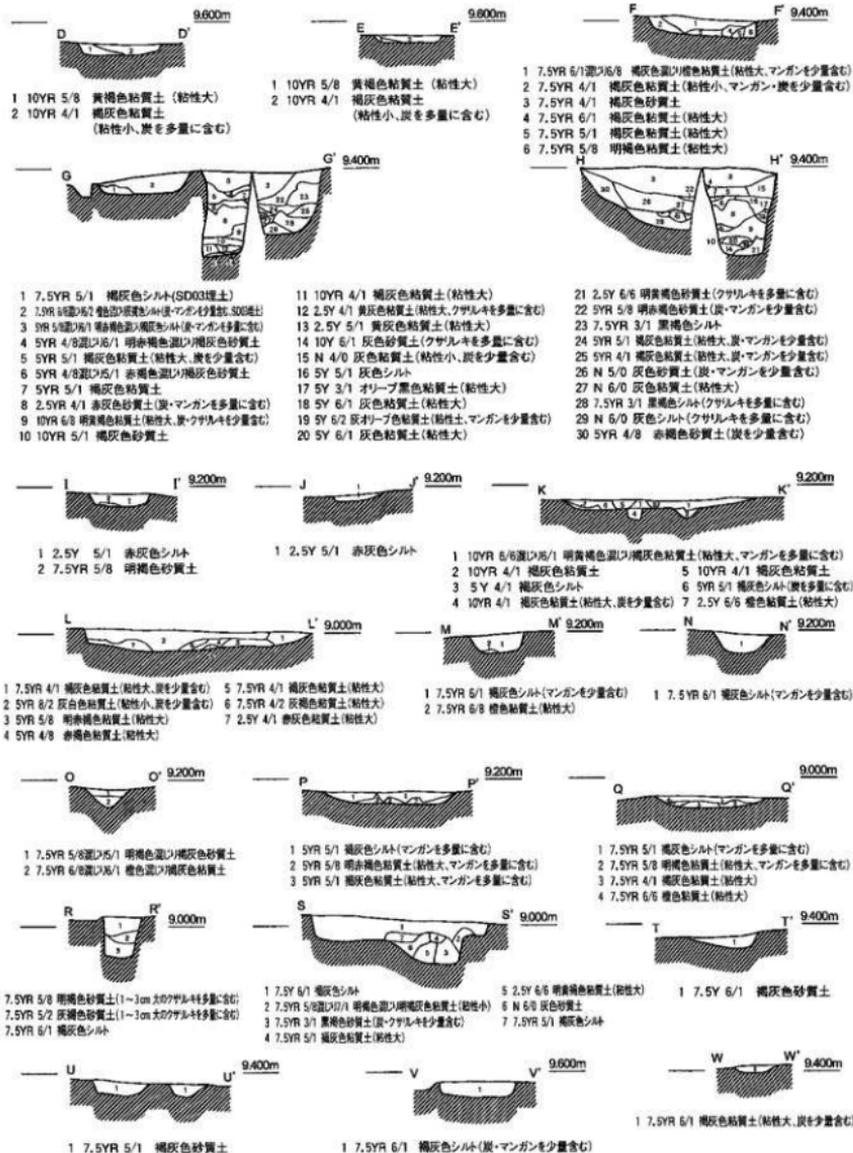
西谷Ⅱ遺跡93-1区 北壁断面図



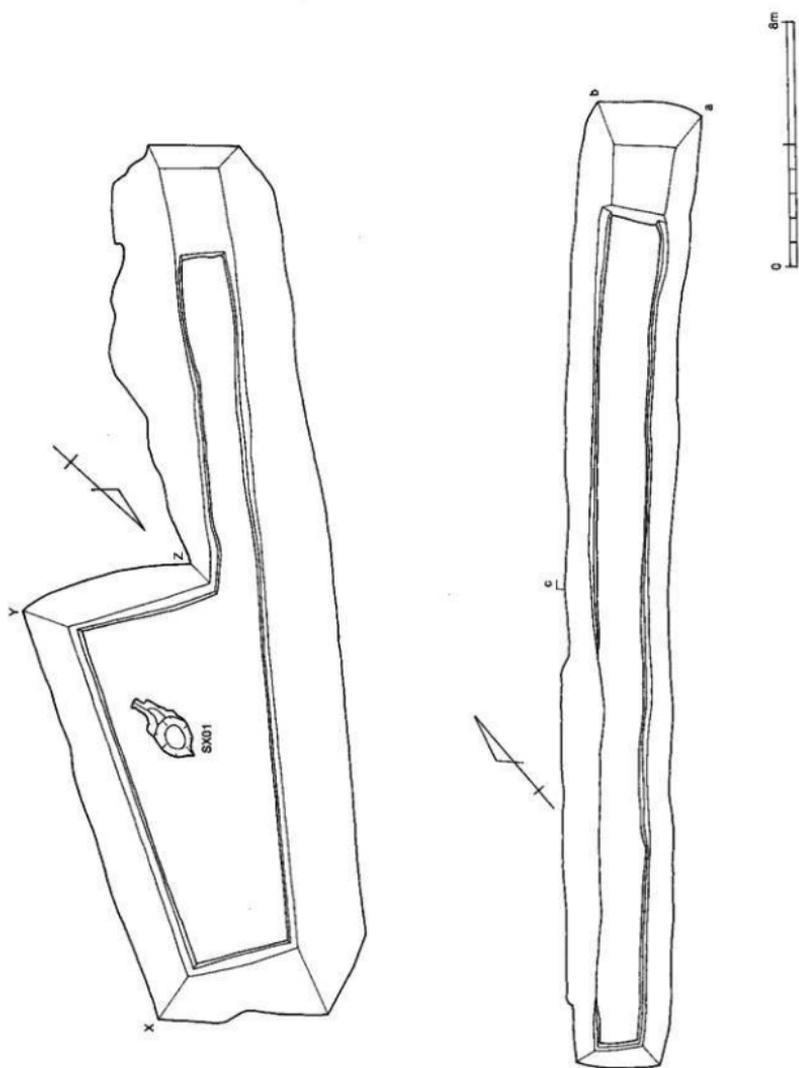
- 24 7.5VR 5/1 補設色粘質土(粘性大)  
 25 5VR 5/2 灰褐色粘質土(粘性大)  
 26 7.5VR 6/2 灰褐色粘質土(粘性大)  
 27 5VR 4/2 灰褐色粘質土(粘性大)  
 28 5VR 3/1 黄褐色粘質土(粘性大)  
 29 10VR 6/1 補設色粘質土(粘性大、マンガンを少量に含む)  
 30 7.5VR 6/2 灰褐色粘質土(粘性大、マンガンを少量に含む)  
 31 10VR 4/1 補設色粘質土(粘性小、原を少量含む)  
 32 5VR 4/1 補設色粘質土(マンガンを少量に含む、砂-灰)  
 33 10VR 4/6 砂質シルト、褐色原の補設色粘質土(粘性大)  
 34 5VR 6/1 補設色粘質土  
 35 10VR 6/4 に近い黄褐色シルト

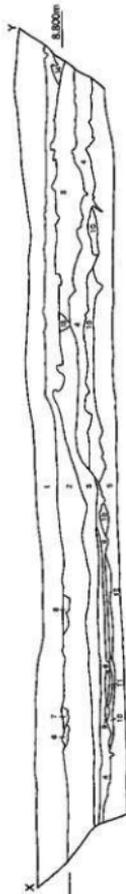
西谷Ⅱ遺跡93-1区 東壁断面図





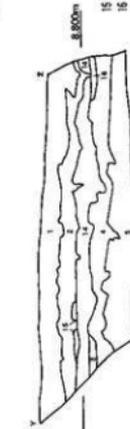
0 2m





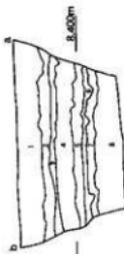
- 1 盛土
- 2 7.5YR 6/1 黒い土
- 3 7.5YR 6/1 黒い土
- 4 5P 2/1 黒い土
- 5 N 6/0 灰褐色土(粘性大、砂っぽい)
- 6 5YR 5/6 黒い土
- 7 2.5YR 5/6 黒い土
- 8 5YR 5/6 黒い土
- 9 5YR 5/1 褐色土
- 10 5G 6/1 緑褐色土(第4層プロファイルに入る)
- 11 7.5Y 5/3 灰褐色土
- 12 5Y 5/6 黒い土
- 13 7.5Y 5/1 褐色土
- 14 5YR 5/6 黒い土

西谷Ⅱ遺跡 93-2区 南壁断面図

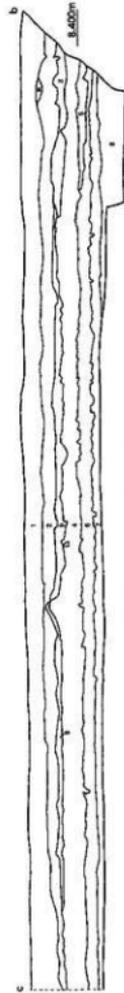


- 1 盛土
- 2 5Y 5/1 灰褐色土
- 3 5Y 5/1 灰褐色土
- 4 2.5Y 4/1 灰褐色土
- 5 5B2 4/1 緑褐色土
- 6 5Y 4/1 灰褐色土
- 7 10YR 5/1 褐色土
- 8 N 4/0 黒褐色土

西谷Ⅱ遺跡 93-2区 西壁断面図



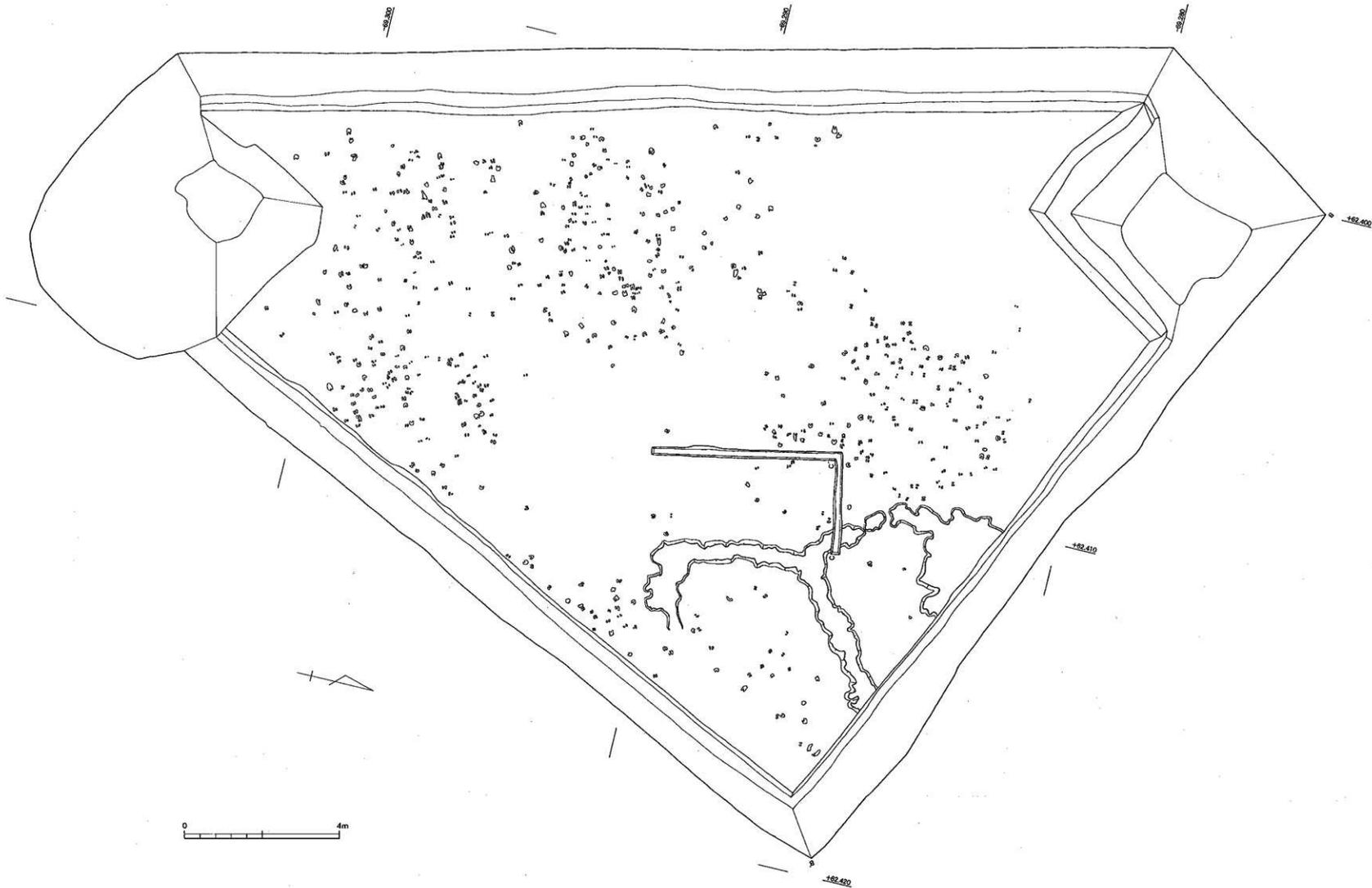
西谷Ⅱ遺跡 93-3区 東壁断面図

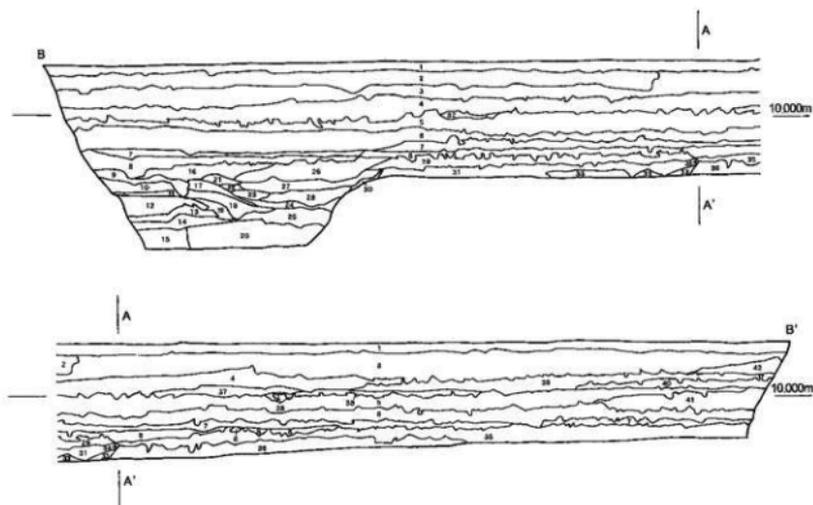


- 9 2.5GY 5/1 オリーブ灰色粘質土(粘性大)

西谷Ⅱ遺跡 93-3区 北壁断面図







- |    |       |         |  |                                |
|----|-------|---------|--|--------------------------------|
| 1  | 5YR   | 3/6     | 暗赤褐色粘質土                                    |                                |
| 2  | 2.5YR | 4/1     | 赤灰色シルト                                     |                                |
| 3  | 5Y    | 4/2     | 灰オリーブ色シルト (炭を少量含む)                         |                                |
| 4  | 10YR  | 4/1     | 灰黄褐色シルト (炭を少量含む)                           |                                |
| 5  | 5B/G  | 6/1     | 青灰色粘質土 (炭を微量含む)                            |                                |
| 5B | 6/1   | 混じり10YR | 5/4 青灰色混じりにぶい黄褐色粘質土 (炭を微量・マンガンを多量に含む、粘性小)  |                                |
| 7  | 10YR  | 4/2     | 灰黄褐色粘質土 (粘性小、炭を微量含む)                       |                                |
| 8  | 5Y    | 3/1     | オリーブ黒色粘質土 (粘性大、炭を少量含む)                     |                                |
| 9  | 5Y    | 6/1     | 灰色砂 (砂粒細かい、炭を少量含む)                         |                                |
| 10 | 5Y    | 5/4     | オリーブ粘質土 (粘性小、1~3cm 大のクサリレキを多量に含む、砂っぽい)     |                                |
| 11 | N     | 6/0     | 灰色粘質土 (粘性小、1~3cm 大のクサリレキを多量に含む)            |                                |
| 12 | 10BG  | 5/1     | 青灰色砂 (1~3cm 大のクサリレキを多量に含む)                 |                                |
| 13 | 2.5GY | 3/1     | 暗オリーブ灰色砂 (砂粒細かい、有機物を多量に含む)                 |                                |
| 14 | 10BG  | 4/1     | 暗青灰色砂礫 (砂粒粗い、1~3cm 大のレキを多量に含む)             |                                |
| 15 | 10G   | 5/1     | 緑灰色粘質土 (砂粒細かい)                             |                                |
| 16 | 10YR  | 5/1     | 褐灰色粘質土 (砂粒細かい、有機物を少量含む)                    |                                |
| 17 | 10G   | 5/1     | 緑灰色砂 (砂粒細かい、有機物を多量に含む)                     |                                |
| 18 | N     | 6/0     | 灰色粘質土 (有機物を少量含む)                           |                                |
| 19 | 5BG   | 5/1     | 青灰色粘質土 (砂粒細かい、1~3cm 大のクサリレキを少量含む)          |                                |
| 20 | 5B    | 5/1     | 青灰色砂礫 (砂粒粗い、1~5cm 大のクサリレキを多量に含む)           |                                |
| 21 | 5Y    | 5/4     | オリーブ色砂礫 (1~3cm 大のクサリレキを多量に含む)              |                                |
| 22 | 10G   | 5/1     | 緑灰色砂 (有機物を多量に含む)                           |                                |
| 23 | 5G    | 5/1     | 緑灰色砂礫 (有機物を多量に含む、1cm 大のクサリレキを多量に含む)        |                                |
| 24 | N     | 4/0     | 灰色砂 (有機物を多量に含む)                            |                                |
| 25 | 5RP   | 5/1     | 潮灰色砂 (有機物を多量に含む、砂粒細かい)                     |                                |
| 26 | 5Y    | 6/2     | 灰オリーブ色砂 (有機物を少量含む、砂粒細かい)                   |                                |
| 27 | 5BG   | 5/1     | 青灰色砂礫 (砂粒細かい、1~3cm 大のクサリレキを多量に含む、有機物を少量含む) |                                |
| 28 | N     | 5/0     | 灰色砂礫 (砂粒粗い、1~3cm 大のクサリレキを多量に含む、有機物を少量含む)   |                                |
| 29 | 10YR  | 6/6     | 明黄褐色シルト (マンガンを多量に含む)                       |                                |
| 30 | 10YR  | 5/1     | 褐灰色砂 (砂粒細かい、有機物を少量含む)                      |                                |
| 31 | 10YR  | 5/8     | 混じり10YR                                    | 6/1 黄褐色混じり褐灰色粘質土 (粘性小)         |
| 32 | 10YR  | 5/1     | 褐灰色粘質土 (炭を少量含む)                            |                                |
| 33 | 2.5Y  | 6/1     | 黄灰色砂 (砂粒細かい)                               |                                |
| 34 | 10YR  | 6/1     | 褐灰色粘質土 (粘性大)                               |                                |
| 35 | 2.5Y  | 6/1     | 黄灰色粘質土 (粘性小、砂っぽい)                          |                                |
| 36 | 10YR  | 5/1     | 褐灰色粘質土 (粘性小、砂っぽい)                          |                                |
| 37 | 10YR  | 4/4     | 混じり10YR                                    | 5/1 褐色混じり褐灰色シルト (褐色がブロック状に混じる) |
| 38 | 10YR  | 4/4     | 混じり10YR                                    | 6/1 褐色混じり褐色シルト (褐色がブロック状に混じる)  |
| 39 | 10YR  | 4/4     | 混じり5YR                                     | 4/1 褐色混じり褐灰色粘質土 (粘性大)          |
| 40 | 7.5YR | 3/4     | 混じり7.5YR                                   | 4/1 暗褐色混じり褐灰色粘質土 (粘性大)         |
| 41 | 7.5YR | 6/6     | 暗褐色粘質土 (粘性大、マンガンを少量含む)                     |                                |
| 42 | 5YR   | 4/1     | 褐灰色シルト                                     |                                |

0 4m



(北から)



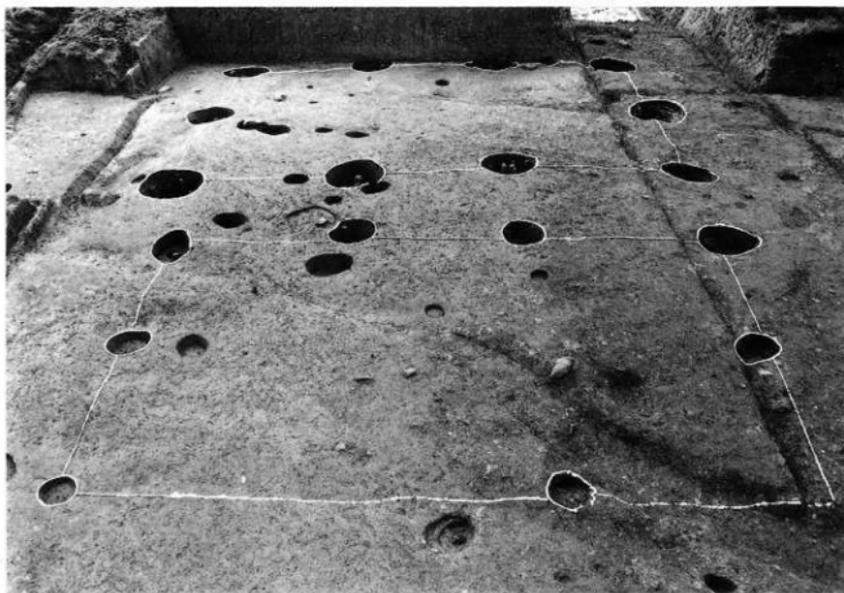
(南から)



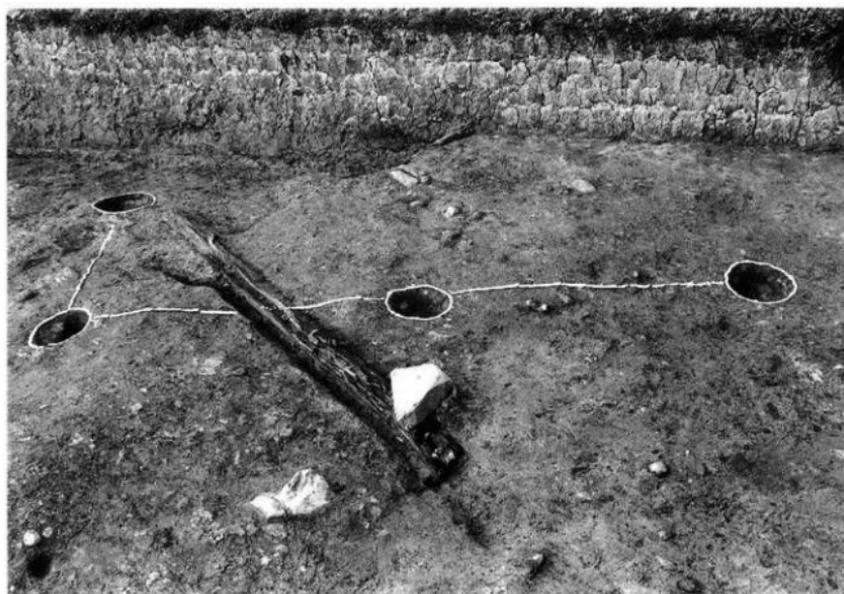
(南から)



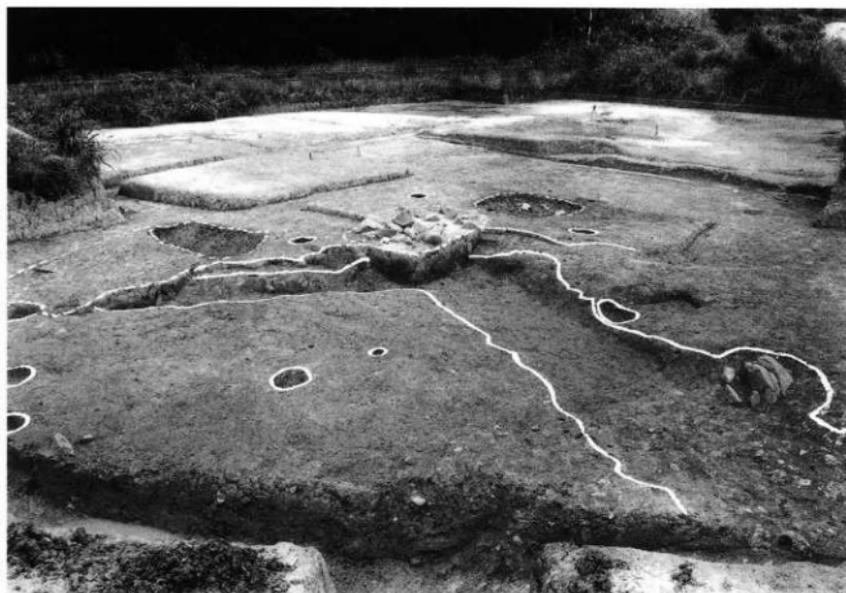
(西から)



(東から)



(南から)



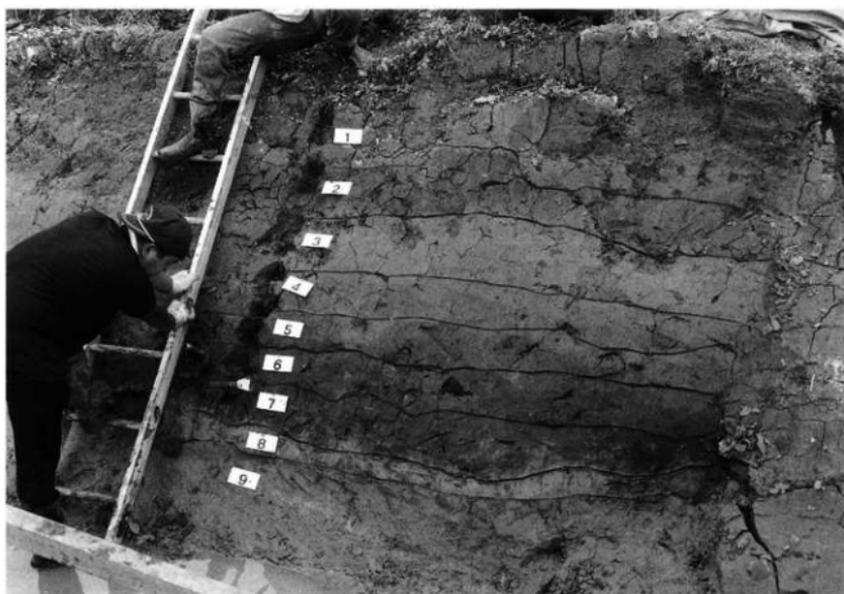
(北から)



(北から)



(南から)



(東から)



(南東から)



(南から)



(北東から)



(北東から)



(南東から)



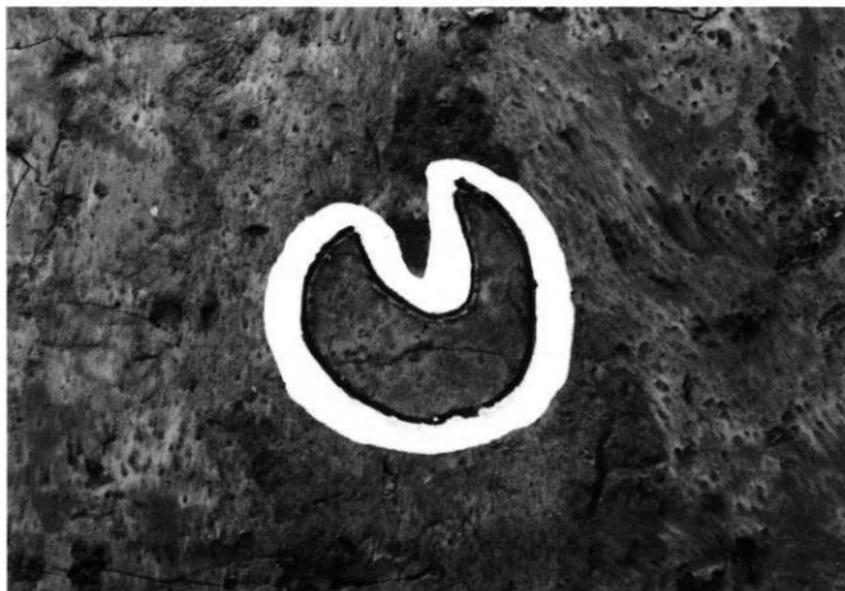
(南西から)



(北から)



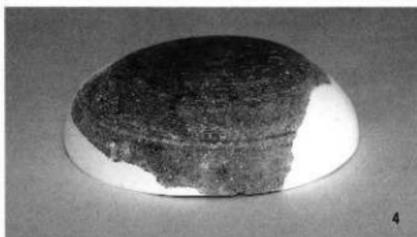
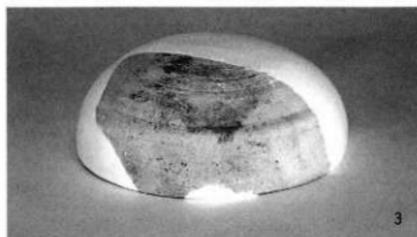
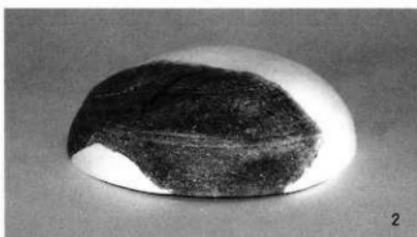
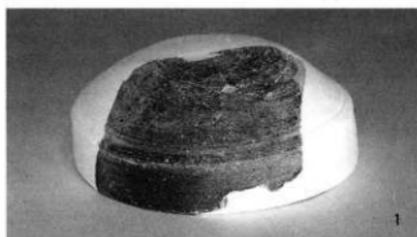
(南東から)

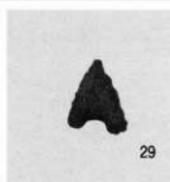
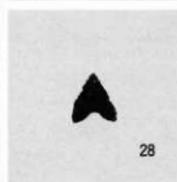
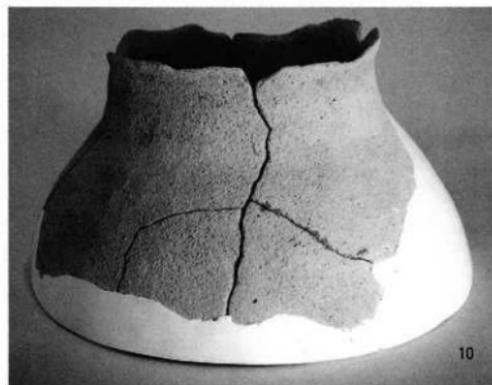
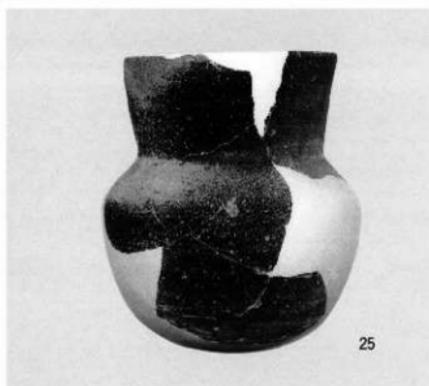
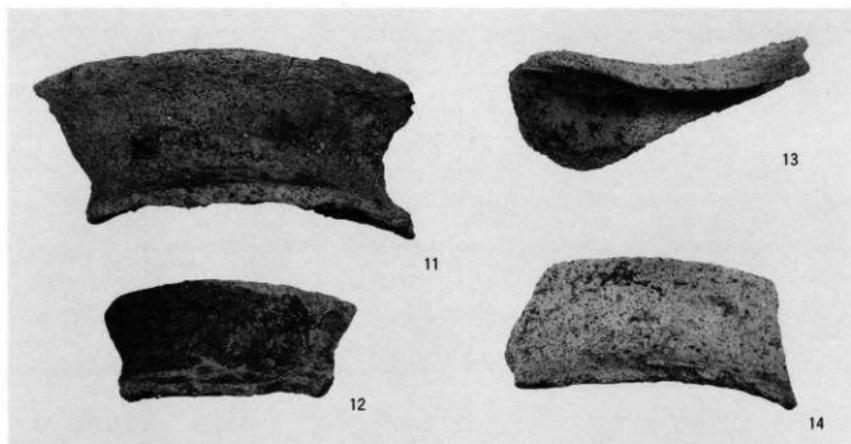


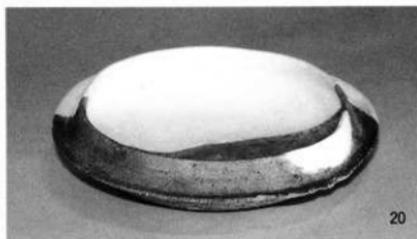
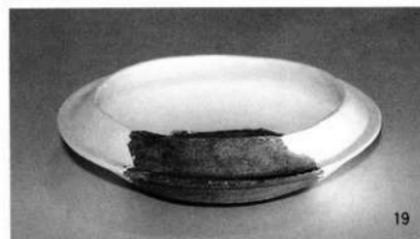
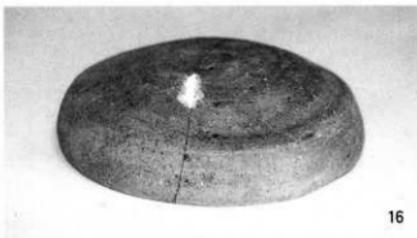
(牛の前肢跡)

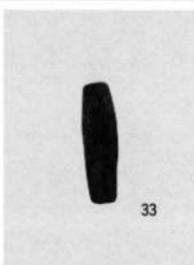
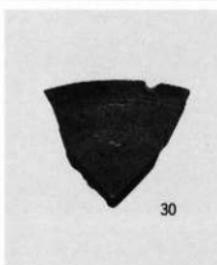
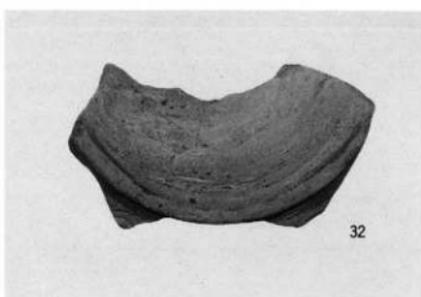


(牛の後肢跡)

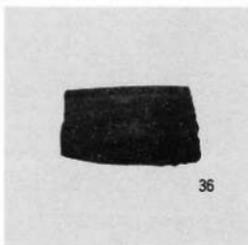
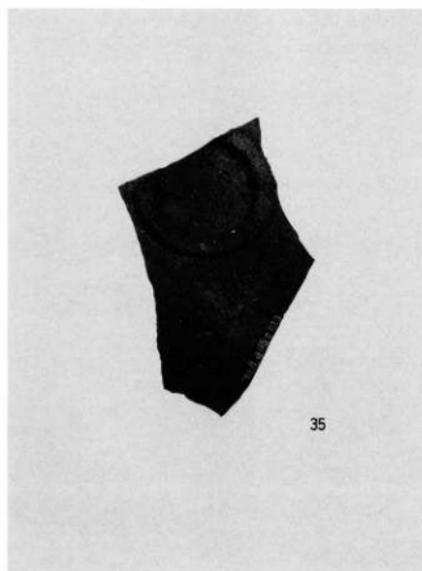




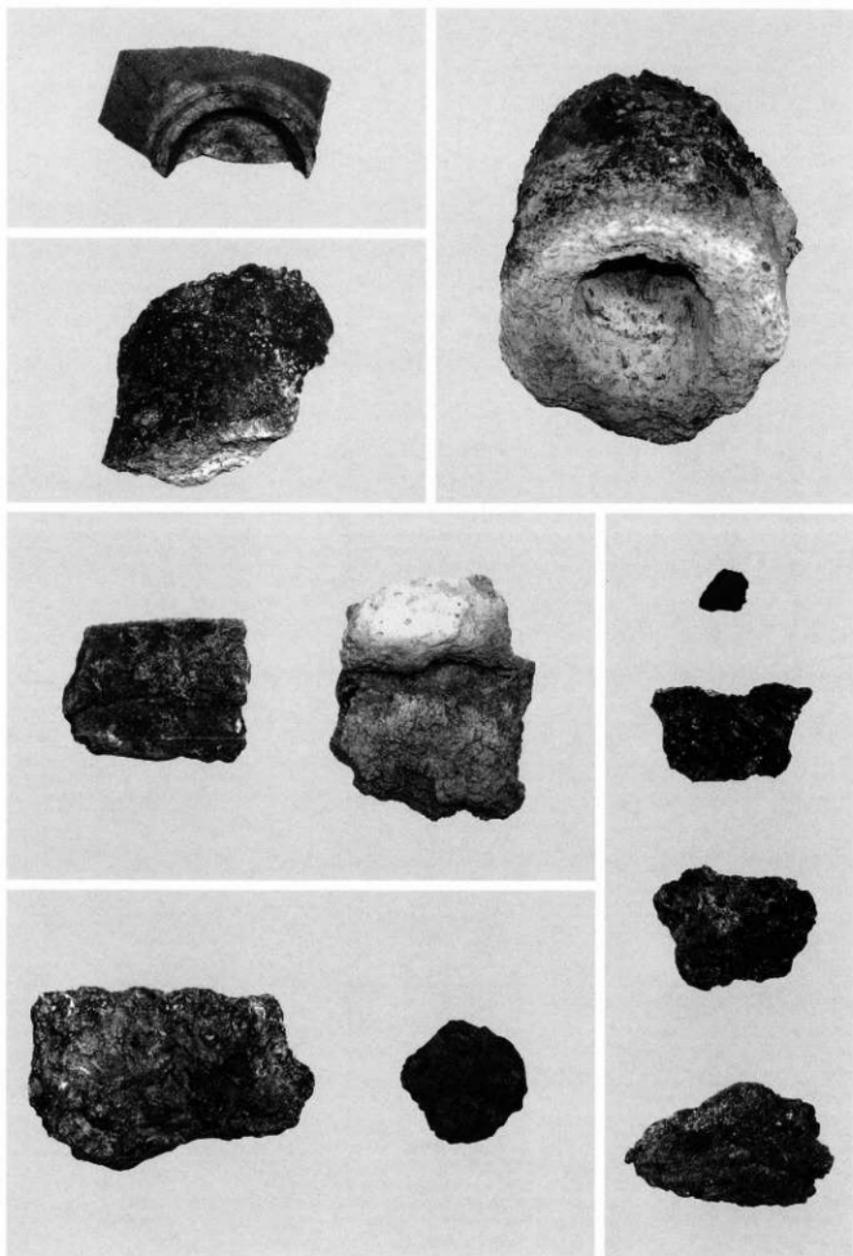


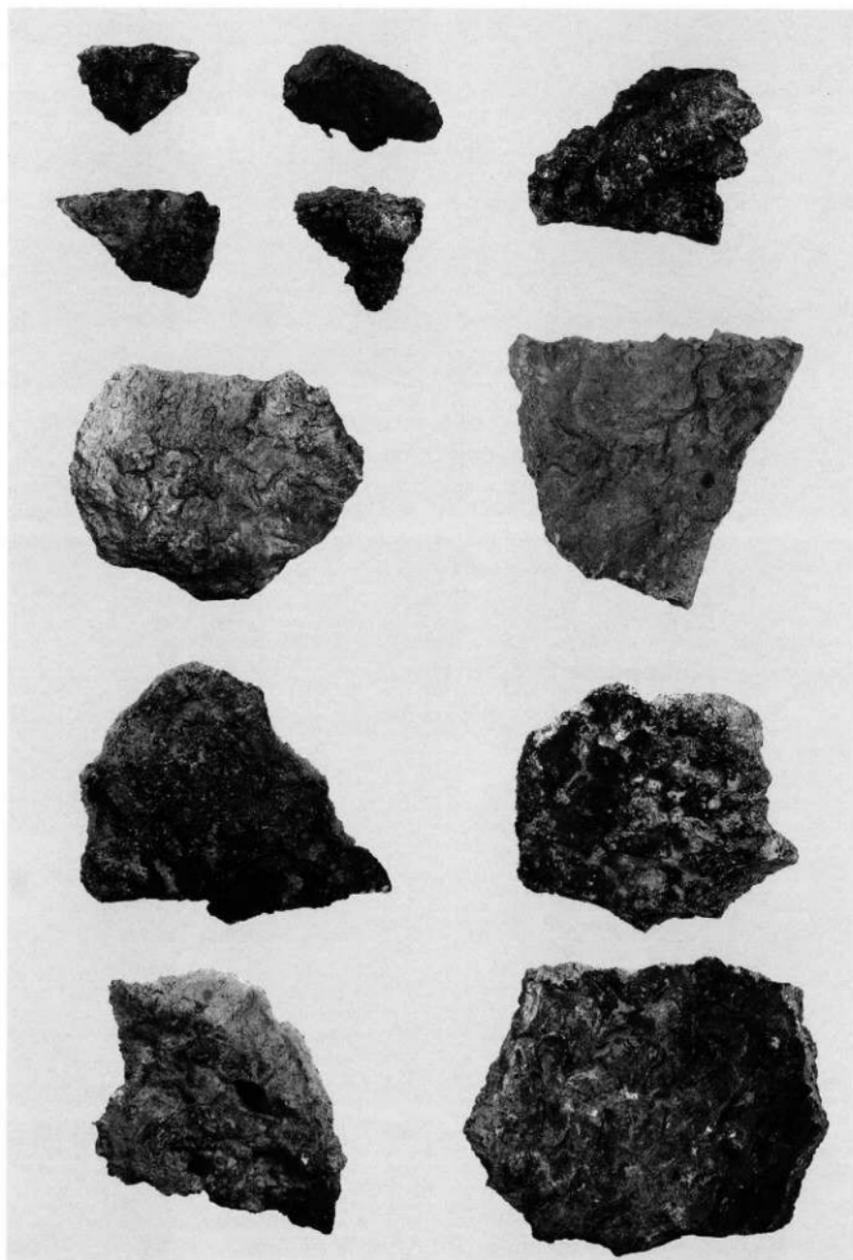


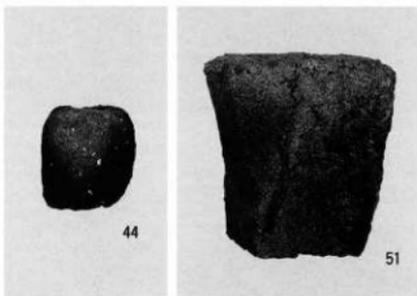
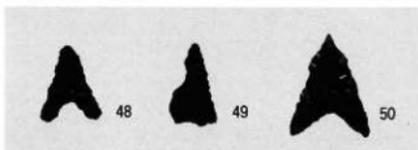
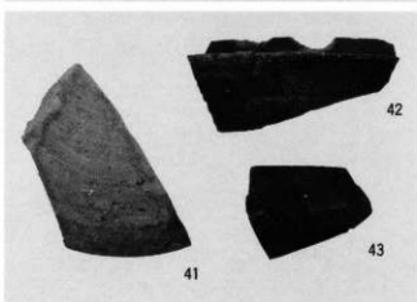
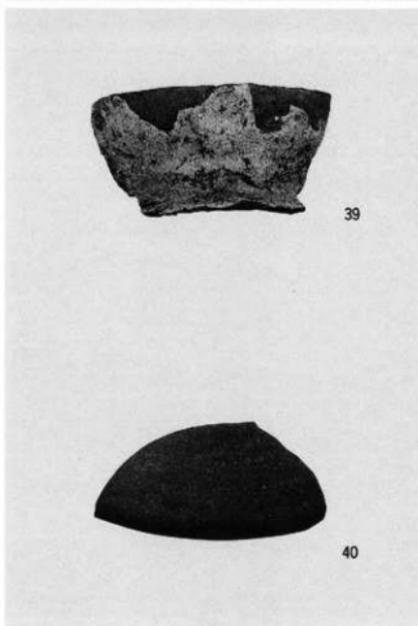
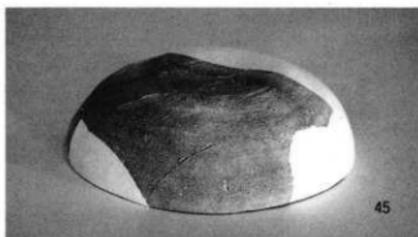
92-3区出土の遺物

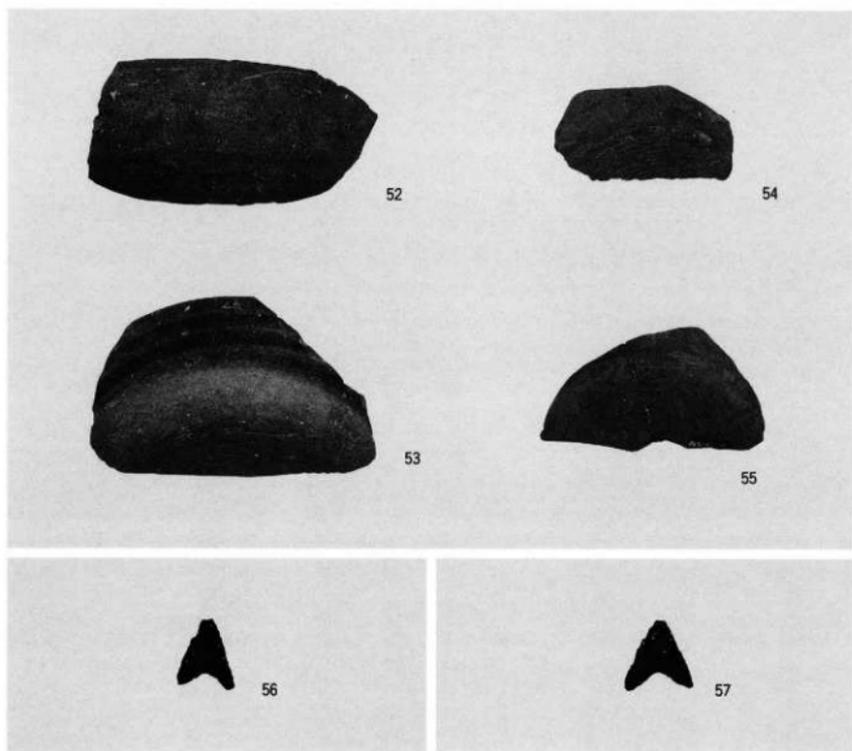


92-4区出土の遺物









# 報告書抄録

ふりがな	こうしん じせいのしんせいの とく ちせき せき せい せいせいのせいせいのせいせいのせい							
書名	荒神谷史跡公園整備に伴う尾田瀬Ⅱ・西谷Ⅱ・西谷遺跡発掘調査報告書							
副書名	_____							
巻次	_____							
シリーズ名	斐川町文化財調査報告							
シリーズ番号	第18集							
編著者名	松本堅吾							
編集機関	斐川町教育委員会							
所在地	〒699-0592 鳥根県藤川郡斐川町大字在原町2172番地							
発行年月日	西暦 1999年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おだせ いせき 尾田瀬Ⅱ遺跡	しまがわ のおだせのせいの おだせのせいの 大字神庭	32401	181	35度 22分 12秒	132度 51分 16秒	920720～ 930625	1.079㎡	史跡公園整備
さいだに いせき 西谷Ⅱ遺跡	しまがわ のおだせのせいの おだせのせいの 大字神庭	32401	172	35度 22分 26秒	132度 51分 8秒	930708～ 940330	622㎡	史跡公園整備
さいだに いせき 西谷遺跡	しまがわ のおだせのせいの おだせのせいの 大字神庭	32401	123	35度 22分 27秒	132度 51分 15秒	940418～ 941228	424㎡	史跡公園整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
尾田瀬Ⅱ遺跡	集落	古墳・奈良・平安	掘立建物など	土師器・須恵器・土鍾・石鏝など				
西谷Ⅱ遺跡	散布地	古墳・奈良・平安	溝状遺構など	土師器・須恵器・土鍾・石鏝など				
西谷遺跡	水田跡	古墳・奈良・平安	畦畔・牛の足跡	土師器・須恵器・石鏝など				

寛神谷史跡公園整備に伴う

**尾田瀬Ⅱ・西谷Ⅱ・西谷遺跡  
発掘調査報告書**

(本文及び図版編)

1999年3月31日

発行 島根県斐川町教育委員会  
〒699-0592  
島根県斐川郡斐川町大字莊原町2172

印刷 鶴俣光社  
島根県平田市平田町993